

科目No. 1		配当時期	担当者
科目名	科学的思考の基盤	1年次前期	ありもと じゅんいち 有本 淳一 にしざわ 西沢 いづみ
	生命現象と科学	単位数	
時間割表記名	生命現象と科学 化学・生物	1単位 時間数 30時間(15回)	
科目のねらい 生命現象の原則・法則から解剖生理学へとつながる知識を養う			D P との関連
授業目標	・科学的な思考法、判断力を身につける ・高校までの化学の基礎を復習し、身につける ・生命現象とは化学反応の連続であると認識する ・生命現象および生命現象の場「細胞」についての基礎的な知識を理解する ・ヒトも自然が産み出した生物の一員であることをあらためて認識する	人間理解	○
		倫理・関係構築	
		看護実践	
		協同・課題解決	
		探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
担当：有本 1. 「もの」は何でできているの？ ・原子の構造、電子配置、イオンと周期表、原子の安定性と価電子 2. 「もの」の量はどうか？ ・原子量・分子量、モル、濃度 3. 放射能はなぜからだに悪い？ ・放射線、放射線の人体への影響と医療における利用 4. 「もの」の成り立ち ・原子の結合、分子の結合、化学反応 5. からだのなかの「水」 ・からだの中の液体、イオンと電解質、浸透現象、酸と塩基 6. からだは何かからできているの？ ・有機化合物とその分類、生体高分子の構造と性質 ※上記1～6の内容を8回かけて講義します			
担当：西沢 1. 生物最小機能単位—細胞（1章） ・細胞という劇場 ・細胞膜の働き 2. 体液のしくみと働き(2章) ・浸透圧 ・電解質 3. 血管系とリンパ系(12章) ・浸透圧を中心に 4. 遺伝D情報を担うDNA(3章) ・遺伝子とは何か・DNAの構造とタンパク質の合成 5. 細胞分裂(3章) ・体細胞分裂と減数分裂 6. 遺伝と遺伝性疾患のしくみ(4章) ・形質と遺伝・遺伝性疾患 7. 総復習（プリント）			
受講上の注意		評価方法	
有本：講義を受けているだけでは身につけません。自宅での学習が非常に重要です。 毎回、予習と復習のワークシートを課題として出します。しっかり取り組んでください。		有本： 筆記試験、提出物等	
西沢：あなたの人間に対する興味、知ろうとする意欲を持参してください		西沢： 筆記試験	
使用するeテキスト		使用するテキスト	
看護系で役立つ化学の基本（化学同人） 看護系で役立つ生物の基本（化学同人） 理科・計算・国語・社会の復習ワークブック＆ドリル（医学書院）			
参考となるeテキスト		参考文献	
化学 生物学		左巻健男編著、新しい高校化学の教科書、講談社ブルーバックス、2006 高松正勝著・鈴木みそ画、マンガ 化学式に強くなる、講談社ブルーバックス、2001	

科目No. 4		配当時期	1年次前!	担当者 こまち たかゆき 小町 崇幸	
科目名	科学的思考の基盤 法と暮らし	単位数	1単位		
時間割表記名	法と暮らし	時間数	30時間(15回)		
科目のねらい 人の暮らしを守る法律の基礎、法解釈を学ぶ 授業目標 「現代社会で生じている問題」への法的な対応策について、基本的な知識を整理・理解することと、法的なものの見方と論理的思考能力、そして推論力を養うことを目標とします。				D Pとの関連	
				人間理解	○
				倫理・関係構築	○
				看護実践	
				協同・課題解決	
				探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
1回 ガイダンス — 講義の進め方 2回 憲法とは何か? — 憲法の意義と立憲主義 3回 憲法の中味 — 統治の仕組みと人権の保障 4回 人権の保障(1) — 人権の定義と性質/個人主義 5回 人権の保障(2) — 自由の大切さ 6回 人権の保障(3) — 平等の大切さ 7回 看護と法 — 刑事上・民事上の責任 8回 民事上の責任 — 損害賠償責任 9回 看護師の過失 — 裁判例を通して 10回 個人情報の取り扱い — 個人情報保護・インフォームドコンセント 11回 看護と労働法 — 労働法制 12回 医療と人権の保障 — 安楽死・尊厳死 13回 生存権と生活保護制度(1) — 生存権保障の意味 14回 生存権と生活保護制度(2) — 様々な生活保護 15回 まとめ — 法制度を概観して					
受講上の注意				評価方法 筆記試験 60点 レポート 20点 平常点 20点	
使用するeテキスト		使用するテキスト			
参考となるeテキスト 看護関係法令		参考文献 必要に応じて、補足資料を配布(配信)します。			

科目No. 5		配当時期 1 年次前期 単位数 1 単位 時間数 20 時間（10 回）		担当者 いながき きみとし 稲垣 公利																												
科目名	科学的思考の基盤 人間の発達と適応																															
時間割表記名	人間の発達と適応																															
科目のねらい 人間の成長発達と心理的なストレスコントロールについて学ぶ。				D P との関連																												
授業目標 1. 生涯発達心理学の観点から、乳児期から老年期までの各年代における人間の発達と適応その諸問題について理解する。 2. 心理的なストレスや疾病について学ぶとともに、ストレスマネジメントや心理的支援についての理解を深める。				人間理解	○																											
				倫理・関係構築	○、																											
				看護実践																												
				協同・課題解決																												
				探究・成長																												
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）																																
<table><tr><th>回数</th><th>学習内容</th></tr><tr><td>第1回</td><td>発達Ⅰ</td></tr><tr><td>第2回</td><td>発達Ⅱ</td></tr><tr><td>第3回</td><td>発達Ⅲ</td></tr><tr><td>第4回</td><td>発達Ⅳ</td></tr><tr><td>第5回</td><td>心理臨床Ⅰ</td></tr><tr><td>第6回</td><td>心理臨床Ⅱ</td></tr><tr><td>第7回</td><td>心理臨床Ⅲ</td></tr><tr><td>第8回</td><td>心理臨床Ⅳ</td></tr><tr><td>第9回</td><td>心理臨床Ⅴ</td></tr><tr><td>第10回</td><td>まとめ</td></tr></table>				回数	学習内容	第1回	発達Ⅰ	第2回	発達Ⅱ	第3回	発達Ⅲ	第4回	発達Ⅳ	第5回	心理臨床Ⅰ	第6回	心理臨床Ⅱ	第7回	心理臨床Ⅲ	第8回	心理臨床Ⅳ	第9回	心理臨床Ⅴ	第10回	まとめ	<table><tr><th>学習成果</th></tr><tr><td>人間の一生（ライフサイクル）を理解し、身近な体験や観察を通して関心をもって理解できる。</td></tr><tr><td>生涯発達についての諸理論と現代社会における諸問題について知る。</td></tr><tr><td>心理的なストレスと疾病について学び、ストレスマネジメントについての考察を深める。</td></tr><tr><td>心理的支援を学ぶことによって、自己理解・他者理解を深めるきっかけになることを期待しています。</td></tr></table>		学習成果	人間の一生（ライフサイクル）を理解し、身近な体験や観察を通して関心をもって理解できる。	生涯発達についての諸理論と現代社会における諸問題について知る。	心理的なストレスと疾病について学び、ストレスマネジメントについての考察を深める。	心理的支援を学ぶことによって、自己理解・他者理解を深めるきっかけになることを期待しています。
回数	学習内容																															
第1回	発達Ⅰ																															
第2回	発達Ⅱ																															
第3回	発達Ⅲ																															
第4回	発達Ⅳ																															
第5回	心理臨床Ⅰ																															
第6回	心理臨床Ⅱ																															
第7回	心理臨床Ⅲ																															
第8回	心理臨床Ⅳ																															
第9回	心理臨床Ⅴ																															
第10回	まとめ																															
学習成果																																
人間の一生（ライフサイクル）を理解し、身近な体験や観察を通して関心をもって理解できる。																																
生涯発達についての諸理論と現代社会における諸問題について知る。																																
心理的なストレスと疾病について学び、ストレスマネジメントについての考察を深める。																																
心理的支援を学ぶことによって、自己理解・他者理解を深めるきっかけになることを期待しています。																																
受講上の注意				評価方法 筆記試験 100点																												
使用するeテキスト 心理学		使用するテキスト 参考文献																														
参考となるeテキスト 人間関係論																																

科目No. 6		配当時期	担当者	
科目名	人間と生活、社会の理解	1 年次前期	あぜにし まみ 畦西 真美	
生活科学	単位数	1 単位		
時間割表記名	生活科学	時間数		
		2 0 時間 （1 0 回）		
科目のねらい			D P との関連	
人間の生活を環境との相互作用から理解し、快適な生活環境を創造する力を養う				
授業目標			人間理解	○
最近の急速な科学・技術の進歩によって、身近な衣・食・住についても、ますます高度な知識が必要となっている。多様化する日常生活において、健康で快適な生活を実践するために、どのようにすればよいかを考えることを目標とする。また、身近な問題として、日常生活に生かすことができる知識に関して理解を深め、私たちが直面する問題と今後の課題についても考えられるようにする。			倫理・関係構築	○
			看護実践	
			協同・課題解決	
			探究・成長	
			授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）	
授業は講義を主とするが、テーマによって演習授業とする。				
教材は、テキスト・プリント・パソコンなどを適宜使用する。				
回	学習内容	学習成果		
第 1 回	オリエンテーション 生活科学とは	健康で快適な生活を送るために、身近な衣・食・住について具体的な問題を対象とする。また、エネルギー資源、地球温暖化、食料不足等の私たちが直面する問題について考える。		
第 2 回	暮らしの中の栄養学 身体活動とエネルギー	体に必要な栄養素、適正エネルギー量、バランスのよい食事を考える。 1 日の基礎代謝量および身体活動量や生体リズムと食事について考える。		
第3回	ライフサイクルと栄養	年代別（妊娠期、乳幼児期、学童期、成人期、高齢期）の栄養と食事について考える。		
第4回	栄養素の基礎知識	五大栄養素である炭水化物、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラルの働きや食品との関係について理解する。		
第5回	衣服と生活 住まいと生活	衣服機能および管理について理解する。 健康的で安全である快適な住まい環境を理解する。		
第6回	日本の衣・食・住に関する伝統文化	日本の気候、風土を生かした工夫や歴史について理解する。		
第7回	暮らしの中の防災	日常生活における防災意識を高め、安全な環境を理解する。		
第 8 回	私たちが直面する問題と今後の課題（ 1 ）	直面する問題を整理し、今後の課題の解決方法を考える。（発表形式）		
第 9 回	私たちが直面する問題と今後の課題（ 2 ）	直面する問題を整理し、今後の課題の解決方法を考える。（発表形式）		
第10回	私たちが直面する問題と今後の課題（ 3 ）	直面する問題を整理し、今後の課題の解決方法を考える。（発表形式）		
受講上の注意			評価方法	
予習としてテキストを熟読しておくこと。			筆記試験：70点	
			授業受講態度：10点	
			課題提出：20点	
使用する e テキスト		使用するテキスト		
		栄養の基本がわかる図解辞典 成美堂出版		
参考となる e テキスト		参考文献		
		適宜紹介します		

科目No. 7		配当時期 1 年次後期	担当者	
科目名	人間と生活、社会の理解	単位数	たなか れいこ 田中 励子	
	人間と社会	1 単位		
時間割表記名	人間と社会	時間数		
		2 0 時間（1 0 回）		
科目のねらい 社会現象のメカニズムから社会の構造や社会の変動を学ぶ			DP との関連	
授業目標 I 現代社会の現状について知り、社会のしくみを学ぶ II ダイバーシティにおけるコミュニケーションについて考える			人間理解	○
			倫理・関係構築	○
			看護実践	
			協同・課題解決	
			探究・成長	
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）				
回数	学習内容	学習成果	備考	
I 社会の現状				
1回	授業計画の説明／子どもの健康と体力	子どもの体力低下の現状を知る		
2回	遊びからみる社会構造の変容	世代毎に子ども時代の遊びを調査	事前学習	
3 回	少子高齢社会：人口減少時代	人口動態から分析する		
4 回	少子化と高齢化の問題点			
5 回	家族の機能と領域	ジェンダーの視点から考える		
II 社会環境の問題点				
6 回	社会的相互作用	社会的役割を考える		
7 回	アイデンティティと社会化	ディズニーやセサミストリートのキャラクター分析	事前学習	
8 回	多様性プログラムとヒューマニティ	違い探しゲーム	GW	
9 回	ダイバーシティ	他者と共生する社会とは		
1 0 回	まとめ			
受講上の注意 積極的な発言や意見を期待します。 他の受講生との活発な話し合いも望みます。 事前に与えた課題を必ず検討してください。		評価方法 筆記試験：80% 提出物：10% 授業への積極的な 取り組み姿勢：10%		
使用する e テキスト		使用するテキスト 適宜、資料を配付します。		
参考となる e テキスト 社会学（医学書院）		参考文献 『ビデオで社会学しませんか』山中速人ほか、 有斐閣 『漫画原論』四方田犬彦、 筑摩書房		

科目 No. 8		配当時期	担当者
科目名	人間と生活、社会の理解	1 年次後期	てらかわ なおき 寺川 直樹
人間と教育		単位数	
時間割表記名	人間と教育	1 単位	
		時間数	
		30 時間 (15 回)	
科目のねらい			DP との関連
教育の概念・目的を理解し、教育の理論的基礎を学び、看護に必要な教育的要素を培う			
授業目標			人間理解 ○
・教育や学校についての基本的な概念や言葉について理解できるようになる。			倫理・関係構築
・生涯学習など、学校教育以外の教育についても理解できるようになる。			看護実践 ○
・学問的・科学的な思考法や判断力を身につけ、主体的に活用できるようになる。			協同・課題解決
・看護師として働く際に必要な教育的資質を培う。			探究・成長
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
第1回	社会の中の教育と看護／教育とはなにかー「教育」の概念 (教科書：第1部第1, 2章)		
	1. 社会・文化・人間形成 2. 機能化された社会における教育と看護 3. 日常用語としての教育 他		
第2回	教育とはなにかー「教育」の概念／教育の対象ー子ども観と発達 (教科書：第1部第2, 3章)		
	1. 子どもを価値とする〈教育〉 2. 発達という見方 3. 権利主体としての子ども		
第3回	社会変動と教育／教育の組織化ー学校 (教科書：第1部第4, 5章)		
	1. 大衆社会の成立と変容 2. 大衆消費社会と情報化社会 3. 学校の役割と機能 他		
第4回	教授ー人を教えるということ (教科書：第2部第6章)		
	1. コミュニケーションとしての教えることー看護との比較 2. 学ぶ・教えるということ 3. 省察 他		
第5回	訓育ー他者とのかかわりを導く (教科書：第2部第7章)		
	1. かかわり合うことの困難 2. 訓育とはなにか 3. かかわりを導く技法 他		
第6回	養護ー教育の受け手を見まもる (教科書：第2部第8章)		
	1. 養護とは 2. 学校における養育の機能 3. 学校における養護の過程 他		
第7回	発達ー教育を受けて成長する (教科書：第2部第9章)		
	1. 発達を支える・促す 2. 「教育による発達」の理論 3. 発達における身体と感情 他		
第8回	学びの場ー家庭と学校 (教科書：第3部第10章)		
	1. 学びの場＝学校という規範 2. 家庭と学校の関係 3. 学校に通うという意味の変化 他		
第9回	教育の目標と評価 (第3部第11章)		
	1. 評価と目標の関係 2. 現在の目標・評価論 3. パフォーマンス評価 他		
第10回	教育のメディアー教育をデザインする／教育の場をつくるしくみ (第3部第12, 14章)		
	1. メディアと教育 2. メディアとしての教師 3. 教育政策のあり方を誰が決めるのか 他		
第11回	教育の担い手ー専門性と専門職性 (第3部第13章)		
	1. 「専門職」としての学校教員 2. 教師の仕事の特質 3. 現代教育改革と学校教員 他		
第12回	キャリア教育 (専門教育) (第4部第15章)		
	1. 変貌する若者のキャリア 2. キャリア教育にできること 3. これからのキャリア教育 他		
第13回	ジェンダーとセクシュアリティ (第4部第16章)		
	1. ジェンダー・セクシュアリティとはなにか 2. ジェンダーと教育の課題 3. セクシュアリティと教育の課題 他		
第14回	特別ニーズ教育・インクルーシブ教育 (第4部第17章)		
	1. 障がい・看護・教育 2. 特別教育・インクルーシブ教育とはなにか 3. 障がいはどう向き合うか 他		
第15回	生涯学習／シティズンシップ教育 (第4部第18, 19章)		
	1. 生涯学習の必要性 2. 成人はどこで学ぶのか 3. シティズンシップ教育とはなにか 他		
受講上の注意		評価方法	
・予習としてテキストを読み、疑問点等を明確にしておくこと。		・授業内小レポート 30点	
・授業内で実施するディスカッションおよび章レポートに積極的に取り組むこと。		・論述試験 70点	
使用する e テキスト		使用するテキスト	
教育学			
参考となる e テキスト		参考文献	

科目 No. 9		配当時期 1 年次全期 単位数 1 単位 時間数 2 0 時間（1 0 回）	担当者 さ か た と も こ 坂田 朋子																																											
科目名 人間の生活、社会の理解 芸術と癒し																																														
時間割表記名 芸術と癒し																																														
科目のねらい 人間の心身の相関について認識を深め、感性・想像力を養い「癒し」について認識を深める			D P と の 関 連 <table><tr><td>人間理解</td><td>○</td></tr><tr><td>倫理・関係構築</td><td>○</td></tr><tr><td>看護実践</td><td></td></tr><tr><td>協同・課題解決</td><td></td></tr><tr><td>探究・成長</td><td></td></tr></table>	人間理解	○	倫理・関係構築	○	看護実践		協同・課題解決		探究・成長																																		
人間理解	○																																													
倫理・関係構築	○																																													
看護実践																																														
協同・課題解決																																														
探究・成長																																														
授業目標 「癒やし」の意味を考察し、理解を深める 癒やしの手段に芸術行為が用いられることについて考察する 芸術療法について理解を深め、看護・保健分野との連携を検討する																																														
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）																																														
<table><tr><th>回数</th><th>学習内容</th><th>学習成果</th><th>備考</th></tr><tr><td>1回</td><td>芸術（Arts）とは何か</td><td>「芸術」とは何か？を考え、なぜ「癒やし」と結びつくのかを考える</td><td></td></tr><tr><td>2回</td><td>人と芸術</td><td>人類の営みの中で、どう芸術が発展したかを知り、私たちの日常生活との関係を考える</td><td></td></tr><tr><td>3 回</td><td>癒やしとは何か①</td><td>「癒やし」の意味について認識を深め、色々な場面での「癒やし」を考える</td><td></td></tr><tr><td>4回</td><td>癒やしとは何か②</td><td>「癒やし」に関わる諸理論を知り、心の動きについての認識を深める</td><td></td></tr><tr><td>5回</td><td>医療・福祉現場の芸術（Arts）</td><td>医療・福祉現場で出会う「芸術」の例を挙げ、何故取り入れられているのかを考察する</td><td></td></tr><tr><td>6回</td><td>芸術療法について（概論）</td><td>様々な種類の芸術療法について学ぶ。諸外国での実際の様子や、日本の実情を知る</td><td></td></tr><tr><td>7回</td><td>芸術療法について（音楽療法①）</td><td>芸術療法の一つである「音楽療法」について学ぶ</td><td></td></tr><tr><td>8回</td><td>芸術療法について（音楽療法②）</td><td>音楽療法の事例を読み、セラピーのプロセスを知る</td><td></td></tr><tr><td>9回</td><td>芸術療法について（絵画・ドラマ等）</td><td>絵画、コラージュ、ドラマセラピーなどの療法を学ぶ</td><td></td></tr><tr><td>10回</td><td>表現することの意味</td><td>今までの授業で考察したこと・体験したことを踏まえて、「芸術」と「癒やし」のつながりについて検討する</td><td></td></tr></table>			回数	学習内容	学習成果	備考	1回	芸術（Arts）とは何か	「芸術」とは何か？を考え、なぜ「癒やし」と結びつくのかを考える		2回	人と芸術	人類の営みの中で、どう芸術が発展したかを知り、私たちの日常生活との関係を考える		3 回	癒やしとは何か①	「癒やし」の意味について認識を深め、色々な場面での「癒やし」を考える		4回	癒やしとは何か②	「癒やし」に関わる諸理論を知り、心の動きについての認識を深める		5回	医療・福祉現場の芸術（Arts）	医療・福祉現場で出会う「芸術」の例を挙げ、何故取り入れられているのかを考察する		6回	芸術療法について（概論）	様々な種類の芸術療法について学ぶ。諸外国での実際の様子や、日本の実情を知る		7回	芸術療法について（音楽療法①）	芸術療法の一つである「音楽療法」について学ぶ		8回	芸術療法について（音楽療法②）	音楽療法の事例を読み、セラピーのプロセスを知る		9回	芸術療法について（絵画・ドラマ等）	絵画、コラージュ、ドラマセラピーなどの療法を学ぶ		10回	表現することの意味	今までの授業で考察したこと・体験したことを踏まえて、「芸術」と「癒やし」のつながりについて検討する	
回数	学習内容	学習成果	備考																																											
1回	芸術（Arts）とは何か	「芸術」とは何か？を考え、なぜ「癒やし」と結びつくのかを考える																																												
2回	人と芸術	人類の営みの中で、どう芸術が発展したかを知り、私たちの日常生活との関係を考える																																												
3 回	癒やしとは何か①	「癒やし」の意味について認識を深め、色々な場面での「癒やし」を考える																																												
4回	癒やしとは何か②	「癒やし」に関わる諸理論を知り、心の動きについての認識を深める																																												
5回	医療・福祉現場の芸術（Arts）	医療・福祉現場で出会う「芸術」の例を挙げ、何故取り入れられているのかを考察する																																												
6回	芸術療法について（概論）	様々な種類の芸術療法について学ぶ。諸外国での実際の様子や、日本の実情を知る																																												
7回	芸術療法について（音楽療法①）	芸術療法の一つである「音楽療法」について学ぶ																																												
8回	芸術療法について（音楽療法②）	音楽療法の事例を読み、セラピーのプロセスを知る																																												
9回	芸術療法について（絵画・ドラマ等）	絵画、コラージュ、ドラマセラピーなどの療法を学ぶ																																												
10回	表現することの意味	今までの授業で考察したこと・体験したことを踏まえて、「芸術」と「癒やし」のつながりについて検討する																																												
受講上の注意 授業内では講義だけではなく、ワークショップも行います。考えるだけではなく、「感覚」を大事にして参加してみてください。		評価方法 出席・授業態度 小レポート 期末レポート																																												
使用する e テキスト		使用するテキスト																																												
参考となる e テキスト		参考文献 ・飯盛眞喜雄 編集『芸術療法 新装版』日本評論社 2019年 ・メルセデス＝パヴリチェヴィク『音楽療法の意味：こころのかけ橋としての音楽』佐治順子 高橋眞喜子共訳 本の杜 2002年																																												

科目No. 10		科目名 人間の生活、社会の理解 語学コミュニケーション（英語）	配当時期 1 年次全期 単位数 1 単位 時間数 30 時間（15 回）	担当者 Paul Mayer ポール・マイヤー
科目のねらい 現在の国際社会に対応できる基礎的なコミュニケーション能力と医療に関するコミュニケーション能力を養う			DP との関連	
授業目標 聞き取りと会話に重点を置き、実際に使える英語を身につける			人間理解	○
			倫理・関係構築	○
			看護実践	
			協同・課題解決	
			探究・成長	
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）				
回数	学習内容	学習成果	備考	
1回	簡単な英会話に対応できる聞き取り能力の向上			
2回				
3回				
4回				
5回				
6回	日本語を話せない患者のケアに役立つ英語を学ぶ			
7回				
8回				
9回				
10回				
11回	一般英語・医療用語それぞれの単語力を向上			
12回				
13回				
14回				
15回				
授業には発音・聞き取り練習や会話が含まれます				
受講上の注意 恥ずかしがらず、積極的に参加してください。 自分の話す英語が通じれば、自信がついて楽しくなります。			評価方法 小テスト・発音テスト 等	
使用するeテキスト		使用するテキスト		
		Vital Signs		
参考となるeテキスト		参考文献		

科目No. 12		配当時期	担当者
科目名	人間の生活、社会の理解 初年次教育ナビ	1 年次前期 単位数 1 単位 時間数 20 時間（10 回）	にいやま ともき 新山 智基
時間割表記名	初年次教育ナビ		
科目のねらい		D P との関連	
初年次教育として、学習および人格的な成長に向けて、学問的・社会的な体験からキャリア意識を醸成する。		人間理解	
授業目標		倫理・関係構築	○
1. アカデミックスキルとは何か、なぜ必要かを理解する。		看護実践	
2. 読む・書く・話す技術を向上させる。		協同・課題解決	○
		探究・成長	○
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回数	学習内容	学習成果	備考
1回	科目ガイダンス 高等教育機関で学ぶということ；学習の心得とマナー 読解・記述・プレゼンテーションスキル	高等教育における「学び」とは何か、どのような「学び」が求められるかを理解する。	
2回	読む技術① 情報検索・情報処理技術 情報・文献の信頼性、Wikipediaの信頼性	学びを深めるために、文献を選択・検索する方法を身につける。	
3回	読む技術② 情報・文献の活用 正しく引用する	情報をどう活用するか、文献活用・引用について理解する。	
4回	考える技術① 論理・論証	論理・論証とは何かを理解する。	
5回	考える技術② 機能的論証 根拠と結論、根拠と導出	論証を進める方法を理解する。	
6回	考える技術③ 事実と考え、事実と意見 トウルミンの論証モデル	事実と考え、意見の違いを理解し、事実に基づき、考えや意見を述べることに挑戦する。	
7回	書く技術① 論理的に書く 文体・一文の長さ・段落・要約	これまでの学習に基づいて、一般的な会話からフォーマルな文章作成に取り組むことができる。	
8回	書く技術② レポートの構成；序論・本論・結論	テーマを設定し、レポート作成に取り組むことができる。	
9回	プレゼンテーションの技術① さまざまな媒体；ポスター、PP、パンフレットなど コミュニケーションとしての発表	さまざまな発表媒体と特徴と利点・欠点を理解する。	
10回	プレゼンテーションの技術② プレゼンテーションの実際	互いに取り組んだテーマを発表し、自己の発表を評価し、課題を明確にする。	グループを編成し発表する
受講上の注意		評価方法	
個人やグループワークでの調べ学習を中心に進めます。積極的な学習姿勢を望む。		授業への参加度、授業中の課題、グループワークでの成果物、最終レポート等によって総合的に評価する。	
使用するeテキスト		使用するテキスト	
参考となるeテキスト		参考文献	
看護情報学		適宜授業の中で紹介する。	

科目No. 14		配当時期	担当者
科目名	人間の生活、社会の理解 情報の活用と情報倫理	1年次前期 単位数 1単位 時間数 20時間(10回)	かとう むつひこ 加藤 睦彦
時間割表記名	情報の活用と情報倫理		
科目のねらい 情報化社会における情報の取り扱い、情報とどう付き合っていくか、どう活用するかを具体的に演習を通して学ぶ 授業目標 1. 情報とは何か、情報社会を支えるコンピュータや情報・通信システムについて知る。 2. 基礎的なWeb検索ソフト・office系アプリケーション、統計ソフトの使い方を習得する。 3. 情報の信頼性を把握する方法、情報の取り扱い・情報倫理を身につける。		DPとの関連	
		人間理解	
		倫理・関係構築	○
		看護実践	
		協同・課題解決	○
		探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	学習成果	備考
1回	情報とは何か 情報検索の方法	情報とは何かを確認し、 情報にアクセスする方法を知る。	
2回	情報検索のスキル 資料の探し方、Cinii論文検索の方法	信頼できる情報とは何かを知り、 適切な情報を検索する方法を理解する。	
3回	情報倫理とは何か、知的財産権と活用 情報セキュリティとは	情報倫理とは何かを理解し、情報の正しい活用と セキュリティ、情報保護を理解する。	
4回	Word による文書作成 書式設定、ページ設定、印刷	Word を使って、文書を作成できる。	
5回	Word による文書作成 図表の作り方、画像の取り込み方	文書に、図などを挿入できる。	
6回	Word による文書作成 文書の校正など	長文の作成に必要な機能を使用できる。	
7回	Powepoint によるプレゼンテーションの作成 スライドの作成	プレゼンテーションソフトの Powerpointを使って、ス ライドを作成できる。	
8回	Powepoint によるプレゼンテーションの作成 アニメーションの設定、スライドショーの実行	作成したスライドを使用して、プレゼンテーションを実 施できる。	
9回	Excel による表の作成 表、グラフの作成	Excelを使って表を作成し、表からグラフを作成でき る。	
10回	Excel による表の作成 数式の使用	Excelを使って資料を作成できる。	
受講上の注意 高等教育に必要な基礎的な情報の取り扱いに関することを学習します。 今後のレポート作成に必要なスキルですので、確実に身につけましょう。		評価方法 授業の参加状況 課題提出 小テスト	
使用するeテキスト		使用するテキスト	
参考となるeテキスト		参考文献	
看護情報学		情報リテラシー (FOM出版)	

科目No. 15		配当時期 1年次前期	担当者
科目名	人体の構造と機能 解剖生理学 I	単位数 1単位	循環器 山口 さゆり(6回) 血液・免疫 山口 さゆり(4回) 呼吸器 筒井 恵美 (5回)
時間割表記名	解 I 循環器・呼吸器・血液免疫	時間数 30時間(15回)	
科目のねらい 正常な人体の構造と機能を系統的に知り、看護に必要な生命の営みと疾病の 成り立ちの前提となる身体の状態を学ぶ		DPとの関連	
授業目標 循環器：循環器の構造と機能を理解する 呼吸器：看護に必要な呼吸器系の構造と機能を理解する 血液・免疫：血液の各成分、体液とその役割、免疫機能について理解する		人間理解	○
		倫理・関係構築	
		看護実践	
		協同・課題解決	
		探究・成長	
授業の流れ (全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回	学習内容	学習成果	備考
1	解剖生理学ガイダンス	解剖学的正常位をふまえ器官系を構成する主な器官が理解できる 細胞と組織、身体を構成するしくみが理解できる	講義
2	心臓の構造	心臓の構造(位置・部屋・弁・心臓壁)が理解できる 心臓の構造(冠状血管系と神経)が理解できる 刺激伝導系が理解できる	講義
3 4	心臓の拍出機能	心周期が理解できる 体循環・肺循環が理解できる 心臓の圧・容積の関係が理解できる 心臓を規定する因子(前負荷・後負荷・収縮性)が理解できる	講義
5 6	末梢循環系の構造 リンパ管の構造と循環	血管の構造が理解できる 主要動脈と静脈が理解できる 血圧と血液の循環について理解できる 血圧・血流量の調節について理解できる リンパ管の構造と循環について理解できる	講義
7	血液の成分と機能	血液の成分と働きについて理解できる 造血と造血因子について理解できる	講義
8	赤血球 白血球の役割と機能 血漿たんぱくの分類と役割	赤血球、白血球の役割について理解できる 血漿たんぱくの分類と各役割について理解できる	講義
9	血小板の役割 血液型	血小板の役割について理解できる 血液凝固のしくみについて理解できる	講義
10	免疫の働き	液性免疫・細胞性免疫のしくみが理解できる	講義
11	呼吸器系器官の構造	上気道、下気道、肺の構造と機能が理解できる 胸腔膜と縦隔が理解できる	講義
12 13	換気のしくみ	呼吸筋を理解し、呼吸運動とその評価方法がわかる ガス交換について理解できる	講義
14 15	呼吸の調節	呼吸運動中枢と呼吸運動の調節について理解できる 呼吸の異常が理解できる	講義
受講上の注意		評価方法 筆記試験 循環器 35点 血液・免疫 30点 呼吸器 35点	
使用するeテキスト 解剖生理学 参考となるeテキスト 循環器／呼吸器／血液・造血器 看護学生スタディガイド		使用するテキスト 参考文献	

科目No. 16		配当時期 1年次前期		担当者	
科目名	人体の構造と機能 解剖生理学Ⅱ	単位数	1単位	脳神経 馬 ^ま 成 ^{なる} 美 (7回) 運動器 川崎 紀子 (5回) 感覚器 阿形 奈津子(3回)	
時間割表記名	解Ⅱ 脳神経・運動器・感覚器	時間数	30時間(15回)		
科目のねらい 正常な人体の構造と機能を系統的に知り、看護に必要な生命の営みと疾病の成り立ちの前提となる身体の状態を学ぶ				DPとの関連	
授業目標 脳・神経：中枢神経と末梢神経の構造と機能を理解する 感覚器：感覚受容器の構造と機能を理解する 運動器：骨と筋の構造と機能を理解する				人間理解	○
				倫理・関係構築	
				看護実践	
				協同・課題解決	
				探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回		学習内容	学習成果	備考	
1	脳神経 (馬 成)	神経細胞と神経組織	神経細胞と情報伝達 神経膠細胞		
2		中枢神経系の構造と機能	大脳 視床 視床下部 中脳 橋 延髄		
3			小脳 脊髄 姿勢反射 髄膜と脳室		
4			脳脊髄液の循環		
5			感覚と運動の伝導		
6		末梢神経系の構造と機能	脳神経 脊髄神経		
7			体性神経 自律神経		
8	運動器 (川崎)	全身の骨と骨格 骨の構造・機能	全身の骨と骨格を理解する 骨の微細構造と働きを理解する	講義	
9		骨の連結 骨格筋	関節の構造、種類と運動について理解する 筋の基本的構造と作用を理解する 骨格筋の収縮について理解する	講義 グループワーク	
10		体幹の骨格と筋 上肢・下肢の骨格と筋 頭頸部の骨格と筋	脊柱の構造と体幹につく筋を理解する 手の構造と運動を理解する 自由上肢、自由下肢の構造と運動を理解する 骨盤の構造を理解する、頭蓋の構造を理解する 表情筋・咀嚼筋・頸部の筋を理解する	グループワーク 発表	
11		骨格筋収縮 不随意筋	骨格筋収縮の種類と特性を理解する 心筋・平滑筋の収縮を理解する	講義 グループワーク	
12		運動のメカニズム	各骨格と筋の知識を活用し、人間の動きを理解する 運動機能と下行伝導路について理解する	発表	
13	感覚器 (阿 形)	体性感覚 視覚	感覚器の分類と特殊感覚器が理解できる 視覚器の構造と機能が理解できる	教科書・資料	
14		聴覚 平衡感覚	聴覚器・平衡感覚器の構造と機能が理解できる	教科書・資料	
15		味覚 嗅覚 皮膚感覚器	味覚器・嗅覚器の構造と機能が理解できる 皮膚感覚器の構造と機能が理解できる	教科書・資料	
受講上の注意				評価方法 筆記試験 脳神経 (45点) 運動器 (35点) 感覚器 (20点)	
使用するeテキスト 解剖生理学			使用するテキスト		
参考となるeテキスト 脳・神経／皮膚／眼／耳鼻咽喉／運動器 看護学生スタディガイド			参考文献		

科目No. 17		配当時期 1年次全期	担当者
科目名	人体の構造と機能 解剖生理学Ⅲ	単位数 1単位	消化器(4回):石東佳子 腎泌尿器(4回):森広美
時間割表記名	解Ⅲ 消化器・腎・泌尿器 内分泌・生殖器	時間数 30時間(15回)	内分泌(4回):上山みゆき 生殖器(3回):松本留美
科目のねらい 正常な人体の構造と機能を系統的に知り、看護に必要な生命の営みと疾病の成り立ちの前提となる身体の状態を学ぶ 授業目標 消化器:消化器の解剖と機能を理解する 泌尿器:腎・排泄路の構造と機能を理解する 内分泌:内分泌臓器とホルモンの種類を理解する 生殖器:ヒトの生殖器の構造と機能を知り、受精、胎児の発生、母体との関係について解剖学的知識を得る			DPとの関連
			人間理解
			倫理・関係構築
			看護実践
			協同・課題解決
			探究・成長
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回	学習内容	学 習 成 果	備考
第1回	消化器系の全体像	摂取・消化・吸収・排泄の概念が理解できる	講義
第2回	口腔・食道の構造と機能 胃の構造と機能	消化管の構造が理解できる 口腔から食道、胃の構造と機能が理解できる 嚥下運動・腺・消化液について理解できる	講義
第3回	小腸・大腸の構造と機能	小腸・大腸の構造と機能が理解できる	講義
第4回	肝臓・膵臓・胆嚢の構造と機能 腹膜の構造と機能	肝臓・膵臓・胆嚢の構造と機能が理解できる 腹膜について理解できる	講義
第5回	腎の構造 尿路・膀胱の構造	腎臓の構造上の特徴を理解する 尿管・膀胱・尿道の構造を理解する	講義
第6回	腎の機能①	尿生成過程を理解する	講義
第7回	腎の機能②	腎の内分泌機能を理解する	講義
第8回	排尿メカニズム	排尿のメカニズムを理解する	講義
第9回	内分泌とホルモン	内分泌の概要、ホルモン分子とその作用機序について理解する	講義
第10回	視床下部・下垂体系 甲状腺と副甲状腺	視床下部、下垂体からのホルモン、その標的について学ぶ 甲状腺と副甲状腺ホルモンとその多様な働きについて知る	講義
第11回	副腎およびストレスとの関連	副腎皮質および髄質からの多様なホルモンとそれらの役割を学ぶ	講義
第12回	膵臓と血糖調節	膵臓の内分泌腺としての働き、糖代謝への関わりおよび糖尿病を学ぶ	講義
第13回	男性生殖器(構造と機能) 女性生殖器(構造と機能)	男性生殖器の精子形成に関わる役割およびテストステロン合成などを知る。 女性生殖器の構造と機能を理解する	講義
第14回	卵巣周期、月経周期	卵巣周期、月経周期、乳腺の働きにおけるホルモンの調節を理解する	講義
第15回	受精と胎児の発生	受精が分かる 胎児の発生が分かる	講義
受講上の注意		評価方法	
予習・復習を必ず行い、確実に知識を定着する努力を期待します。		筆記試験 消化器(課題10点/筆記20点) 腎泌尿器(25点) 内分泌(25点) 生殖器(20点)	
使用するeテキスト 解剖生理学		使用するテキスト	
参考となるeテキスト 消化器／腎・泌尿器 内分泌・代謝／女性生殖器		参考文献 看護学生スタディガイド(照林社) 病気がみえる Vol.8 腎・泌尿器(メディックメディア)	

科目No. 18		配当時期		担当者	
科目名 人体の構造と機能 看護のための形態機能学Ⅰ		1年次全期		石東 佳子 1～5回 筒井 恵美 6～10回	
時間割表記名		単位数 1単位			
形態機能学Ⅰ		時間数 20時間(10回)			
科目のねらい 私たちが、通常、意識せずに営んでいる日常生活行動は、何のために行われているのか、どのような身体 のしくみから成り立っているのかを理解し、生活行動に支障を来したとき身体のしくみから、看護援助を考 える土台をつくる。				DPとの関連	
授業目標 1. 人間は身体をどのように使って日常生活行動を遂行しているのかわかる。 2. 「食べる」「排泄する」「眠る」という行為が、人間の健康にどのように関連しているのかわ かる。				人間理解	○
				倫理・関係構築	
				看護実践	
				協同・課題解決	○
				探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回数	学習内容		学習成果		備考
1回	形態機能学とは何か 開放システム ニードと生活行動		形態機能学とは、何を学ぶことかを理解する 人間は開放システムであることを理解する ニードと生活行動の理解をする		ワークシート
2回	生きるとは、どのようなことか		解剖生理学で学んだことが想起できる 生きるということが、全システムを通して、俯瞰して理解できる		ワークシート
3回	日常生活行動「食べる」(1) 食事を「する」身体への洞察；「食べる」「食べたい」と いう思いを支えるもの		栄養摂取と食事をするこの違いを理解する 食事を「する」ことに関する環境、食欲姿勢から食行動までの 過程が、食事を「する」ことの前提として必要であることを理解 する		ワークシート
4回	日常生活行動「食べる」(2) 食べること、噛むこと、飲み込むこと、ペース		嚥下はできて「食べられない」とは、どのような状態か、咀嚼、 嚥下、咽せる力、その人の食事ペースが、食べることを支えて いることを理解する		ワークシート
5回	日常生活行動「食べる」(3) 「食べる」と栄養摂取の関連 「食べる」ことによってはたらく身体の機能		食事によって摂取したものが消化・吸収されたかをどのように知 ることができるか、消化・吸収によって、身体の機能を働かせる 役割があることを理解する		ワークシート
6回	息をする 呼吸運動と神経支配 ガス交換		生活行動と呼吸機能の繋がりが理解できる		テキスト第6章
7回	日常生活行動「トイレに行く」(1) 発達過程と排泄の自立 排泄の自立のための要素		人間は、生後数時間から排泄を始めるが、神経系統の発達 と共に随意的な排泄に至るまで、失敗をくりかえしながら学習 してきたことを理解する		テキスト第7章
8回	日常生活行動「トイレに行く」(2) 排尿の過程：尿の貯蔵と尿意、排尿路		排尿は、尿の生成・貯蔵・尿意・排尿路と排泄行動が関連し て成立することを理解する		テキスト第7章
9回	日常生活行動「トイレに行く」(3) 排便の過程：便意、排便 胃－結腸反射、直腸内圧の上昇、排便動作		排便は、便の形成・排便反射、排便動作が関連して成立す ることを理解する		テキスト第7章
10回	「眠る」 「眠る」ことの意義 睡眠の種類とメカニズム		「眠る」ことは、人間の発達した大脳を休ませる高度な生理機 能としての適応行動・生体防御であることを理解する 眠れないことによる問題を理解する		テキスト第9章
受講上の注意 各回、事前学習課題があります。 チームを編成し、事前学習の共有、全体での確認とレクチャーという方法で進みます。看護技 術を対象者に実践するときの根拠・基礎となる科目ですので、楽しくガンバリマシヨウ。			評価方法 筆記試験(石東 30点 筒井 30点) 課題提出状況(石東 20点 筒井20点)		
使用するeテキスト 看護形態機能学 生活行動からみるからだ(日本看護協会出版会)			使用するテキスト 参考文献		

科目No. 19		配当時期	担当者
科目名 人体の構造と機能 看護のための形態機能学Ⅱ		1年次後期	1～6回目 阿形奈津子 7～10回目 筒井 恵美
時間割表記名		単位数 1単位	
形態機能学Ⅱ		時間数 20時間(10回)	
科目のねらい 私たちが、通常、意識せずに営んでいる日常生活行動は、何のために行われているのか、どのような身体のしくみから成り立っているのかを理解し、生活行動に支障を来したとき身体のしくみから、看護援助を考える土台をつくる。			DPとの関連
授業目標 1. 人間は身体をどのように使って日常生活行動を遂行しているのかわかる。 2. 「動く、運動する」「清潔」「話す・歌う」という行為が、人間の健康にどのように関連しているのかわかる。			人間理解 ○
			倫理・関係構築
			看護実践
			協同・課題解決 ○
			探究・成長 ○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	学習成果	備考
1回	看護のための形態機能Ⅱ ガイダンス 人体の構造と機能と日常生活行動との関連 形態機能学を看護に活かすための思考	看護のための形態機能Ⅰを受けて人体の構造と機能の理解とセルフケアとの関連をもとに看護を導き出す思考について考えることができる	授業中に提示
2回	「話す」「歌う」のメカニズム 人は話すときと歌うときは同じ部位(大脳)なのか 話すときと歌うの形態機能を看護にどのように活かすか	「話す」「歌う」のメカニズムの違いを理解し、人間の表現の1つであるコミュニケーションとの関連が考えられる	授業中に提示
3回	事例から「話す」「歌う」のはたらきを活かした看護を考える(グループワーク)	事例を通して「話す」「歌う」のメカニズムを活用し看護を考える	授業中に提示
4回	「随意運動」と「不随運動」のメカニズム① 意図的な運動と運動機能の障害の関連 事例をもとに考える(グループワーク)	「運動機能」のメカニズムの理解で重要な随意運動と不随運動の違いを理解し、その部分が障害されたときの状態や症状について考えることができる	授業中に提示
5回	「リハビリテーションのゴールは歩行か?」 事例を通してリハビリテーションの意味について考える(グループワーク)	事例の運動機能障害を理解した上で、事例のゴールとその看護について考えられることができる	授業中に提示
6回	「リハビリテーションのゴールは歩行か?」 事例を通してリハビリテーションの意味について考える(発表)	事例のゴールとその看護について発表会を通して共有することができる	授業中に提示
7回	「熱い」「冷たい」を感じるメカニズム① 人間が心地よいと感じる温度とは 心地よいと感じる温度の実験	皮膚の重要な感覚受容器(温度覚・痛覚)について理解し、そのメカニズムと心地よさについて実験を通して理解する	授業中に提示
8回	「皮膚の自浄作用」のメカニズム 皮膚を清潔に保つためにはどのような方法が適切か 洗浄剤・使用具・使用方法の実験	皮膚の自浄作用について理解し、それらが正常に働くために清潔にすることの意義について様々な洗浄剤や洗浄方法を実験し検証する	授業中に提示
9回	事例(片麻痺)の患者への看護を考える 「皮膚の清潔と心地よさ」の理解をもとに清潔方法を考える(グループワーク)	事例の患者の看護を通して形態機能学の活用法について理解する	授業中に提示
10回	事例(片麻痺)の患者への看護を考える 「皮膚の清潔と心地よさ」の理解をもとに清潔方法を考える(発表)	事例の患者の看護を発表会を通して形態機能学の活用法について共有する事ができる	授業中に提示
受講上の注意		評価方法	
各回、事前学習課題があります。 チームを編成し、事前学習の共有、全体で考えるという方法で進みます。看護技術を対象者に実践するときの根拠・基礎となる科目ですので、実験・ワークを通して楽しく協力してまなびましょう。		筆記試験 40点(阿形20点 筒井20点) 課題提出状況 30点(阿形20点 筒井10点) 発表会 30点(阿形15点 筒井15点)	
使用するeテキスト 看護形態機能学 生活行動からみるからだ(日本看護協会出版会)		使用するテキスト	
参考となるeテキスト		参考文献	

科目No. 20		配当時期	担当者
科目名	人体の構造と機能 栄養と代謝	1 年次全期	①石川 道子 ②西沢 いづみ
時間割表記名	栄養と代謝① 栄養と代謝②	単位数 1 単位	
		時間数 30 時間（15 回）	
科目のねらい 人間にとっての栄養の意義,ライフサイクルの中での栄養の特徴を理解し,食事療法や栄養指導の基礎を学ぶ。			D P との関連
授業目標 臨床栄養学を幅広い観点から見極められるような基礎知識を習得する。 食物の適切・不適切な摂取が生体生命、健康維持、疾病、治療回復にどのような係りを持っているか学ぶ。 生体内で生じる化学変化・エネルギー変換を学ぶ。私たちが摂取する食べ物や栄養素の基礎知識、健康や疾病との関わりを学び、健康維持、疾病特に生活習慣病の一次予防、治療回復、寝たきり介護者を減らし健康寿命を延ばすことに役立てる。			人間理解 倫理・関係構築 看護実践 協同・課題解決 探究・成長
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
栄養と代謝①（10 回） 看護師として正しい栄養学の基礎知識と栄養健康情報を学び、医療に役立て、伝え、指導でできることは必要です。 何をどのようにどれくらいいつ食べたらよいかも、栄養疫学により明らかにされ、時代の流れと共に変化していきます。 「EBN」evidence-based nutrition「根拠に基づく栄養学」の流れに沿って講義を進めます。 1. 食物に含まれている栄養素の種類、体内での役割、バランス良い摂取割合を学習 2. たんぱく質：タンパク質の栄養価の評価方法を学び、食事をする時の効率よい摂取方法、一日の摂取量を知る 3. 脂質：食品中の脂質は食品によって脂質を構成している脂肪酸の種類が異なり、生理作用も大きく異なることを学習 4. 炭水化物：食品に含まれている炭水化物の中で栄養上重要なもの、栄養価値、適切な摂取量、方法を学習 5. 食物繊維：食品に含まれる食物繊維の種類を知り、重要な生理作用、生活習慣病とのかわりを学習 6. ミネラル：カルシウム、リン、マグネシウム、ナトリウム、カリウム、鉄の臨床栄養上重要な働きを学習 7. ビタミン：エネルギー代謝・生活習慣病と関わり、機能を発揮するビタミンについて学習する 8. エネルギー代謝：食品の持つエネルギー量を知る方法、生体におけるエネルギー代謝、計算方法を学習 9. 生活習慣病の一次予防を踏まえた食生活、栄養摂取、高齢者の健康寿命に大きな役割を果たしている食生活を学習 10. 治療、機能回復に栄養が深く係り重要である疾病の食事療法を学習			
栄養と代謝②（5 回） 1. 化学エネルギーと代謝：異化と同化・三大栄養素の消化・吸収、異化作用によるエネルギー獲得(5章) 2. 化学反応と酵素・糖質の代謝・糖新生の流れ：血糖値の維持について学習(6章・7章) 3. 脂質の代謝と運搬：エネルギーの長期貯蔵庫であり、体内での脂質の運搬について学習(8章) 4. タンパク質・アミノ酸の代謝：タンパク質の消化吸収・アミノ酸の分解・合成の過程を学習(9章) 5. 糖質が余分にある時とない時・糖尿病の代謝：代謝とホルモンのバランスについて学習(9章)			
受講上の注意 ①授業は指定eテキスト、PowerPointで行う。 毎回講義終了時に学んだ事が理解できているかふりかえりテストを行う。 ②講義およびテキストの栄養素の代謝はしっかり理解しておくこと			評価方法 筆記試験（①70点、②30点）
使用する e テキスト ①栄養学（医学書院） ②看護系で役立つ生物の基本（化学同人） 看護系で役立つ化学の基本（化学同人）		使用するテキスト 参考文献 ナーシング・グラフィカ 臨床栄養学／臨床生化学（メディカ出版）	
参考となる e テキスト 生化学（医学書院）		参考文献 ナーシング・グラフィカ 臨床栄養学／臨床生化学（メディカ出版）	

科目No. 21		配当時期 1年次後期	担当者	
科目名	疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	ふじた なおひさ 藤田 直久	
	感染症と生体防御	1単位		
時間割表記名	感染症と生体防御	時間数		
		30時間(15回)		
科目のねらい 人体へ影響を及ぼす微生物の種類や特徴,感染経路を学ぶとともに生体の防御機構を知りその予防対策を学ぶ。 授業目標 医療の進歩によって感染症は形を変えて我々の健康をおびやかしており、看護にあたっては微生物学の基本的知識の習得が求められている。微生物学のアウトラインを与え、個々の微生物による感染症についての基礎知識を学習する。また、感染防御機構についても学習する。			D P との関連	
			人間理解	○
			倫理・関係構築	
			看護実践	○
			協同・課題解決	
			探究・成長	
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）				
病原微生物学（1～10回）				
①微生物とは何か、また、何故看護に従事する人々は微生物学の体系的知識を必要とするかを学習する。				
②日和見感染、院内感染、菌交代症などの感染と発病、滅菌と消毒、化学療法、感染症の予防について学習する。				
③代表的な個々の細菌、ウイルス、真菌、原虫による感染症について学習する。小児に多い感染症についても言及する。				
感染防御機構（11～15回）				
感染に対する生体の防御機構について学習する。				
①自然免疫：感染早期に病原体一般に働く仕組み				
・生体表面での防御機構 ・食細胞とNK細胞 ・サイトカイン				
②獲得免疫（免疫系）：病原体と専門的に働く仕組み				
・免疫系の細胞 ・抗原 ・免疫応答 ・液性免疫 ・細胞性免疫				
③予防接種				
※講義はスライド資料を中心におこない、グループ討議を交えながら、理解を進める。				
受講上の注意 講義終了後に小テストを実施する			評価方法 筆記試験 100点	
使用するeテキスト 微生物学		使用するテキスト		
参考となるeテキスト アレルギー・膠原病・感染症		参考文献 ナーシング・グラフィカ 臨床微生物・医動物（メディカ出版）		

科目No. 22		配当時期	担当者	
科目名	疾病の成り立ちと回復の促進	1年次後期	おかもと 岡本 えいいち 英一	
	病理学	単位数		
	時間割表記名	1単位		
	病理学	時間数		
		20時間(10回)		
科目のねらい 疾病の成り立ちと病変の特徴の基礎的知識を習得する 授業目標 病気の成り立ちや身体内での病的変化が実際にはどのようなものであるかを学ぶ			D P との関連	
			人間理解	○
			倫理・関係構築	○
			看護実践	
			協同・課題解決	
			探究・成長	
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）				
回数	学習内容	学習成果	備考	
1回目	病理学で学ぶこと	病理学の概要がわかる		
2回目	炎症と感染症、免疫、膠原病①	炎症のメカニズムを理解し、代表的な感染症、免疫障害、膠原病がわかる		
3回目	炎症と感染症、免疫、膠原病②			
4回目	循環障害	代表的な循環障害がわかる		
5回目	先天異常と遺伝子異常	代表的な先天異常と遺伝子異常がわかる		
6回目	代謝障害	代表的な代謝障害がわかる		
7回目	腫瘍①	腫瘍のメカニズムを理解し、代表的な腫瘍疾患がわかる		
8回目	腫瘍②			
9回目	老化と死	老化と死を考えることができる		
10回目	まとめ			
受講上の注意			評価方法	
指定教科書に沿って講義を進めます。限られた時間なので講義中の質疑応答は短くしますが、終講後も歓迎します。			筆記試験 100点	
使用するeテキスト		使用するテキスト		
病理学				
参考となるeテキスト		参考文献		

科目No. 30		配当時期 1 年次後期	担当者 きた たいぞう 喜多 大三										
科目名	疾病の成り立ちと回復の促進 疾病の回復と薬理	単位数 1 単位											
時間割表記名	疾病の回復と薬理	時間数 30 時間（15 回）											
科目のねらい 看護に必要な薬物治療の意義を理解し、患者を援助できる知識力を習得するために、薬物の薬理作用、有害作用および管理や取り扱いなどについて学ぶ。 授業目標 薬物治療に使用される薬物の幅広い知識を習得する。 薬物動態、薬物の管理に必要な基礎的な知識を習得する。 疾病の薬物治療と与薬の実践者として、その効果や有害作用を観察できる知識を習得する。			DP との関連 <table><tr><td>人間理解</td><td>○</td></tr><tr><td>倫理・関係構築</td><td></td></tr><tr><td>看護実践</td><td>○</td></tr><tr><td>協同・課題解決</td><td></td></tr><tr><td>探究・成長</td><td></td></tr></table>	人間理解	○	倫理・関係構築		看護実践	○	協同・課題解決		探究・成長	
人間理解	○												
倫理・関係構築													
看護実践	○												
協同・課題解決													
探究・成長													
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）													
回	学習内容	学 習 成 果	テキスト										
1	薬理学総論① 薬物治療と看護、薬理学とは何か	薬物治療での与薬者としての薬理学的知識が習得できる チームによる薬物治療と看護師の役割について理解できる											
2	薬理学総論② 薬力学と薬物動態学など	薬が作用するしくみを理解できる 薬物の体内動態、薬物間相互作用などが理解できる											
3	薬理学総論③ 薬物の有益性と危険性など 薬と法律など	薬効の個人差に影響する因子などが理解できる 薬物の有益性と危険性を理解できる 薬と法律が理解できる											
4	末梢での神経活動に作用する薬物	末梢での神経活動に作用する主な薬物が理解できる											
5	抗アレルギー・抗炎症作用をもつ薬物	抗アレルギー・抗炎症作用をもつ主な薬物が理解できる											
6	中枢神経系に作用する薬物	中枢神経系に作用する主な薬物が理解できる											
7	免疫治療薬	免疫抑制薬・免疫増強薬・予防接種薬の主な薬物が理解できる											
8	呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物	呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する主な薬物が理解できる											
9	物質代謝に作用する薬物①	糖尿病薬・甲状腺疾患治療薬の主な薬物が理解できる											
10	物質代謝に作用する薬物②	視床下部・下垂体ホルモン製剤・骨粗鬆症治療薬、ビタミン類の主な薬物が理解できる											
11	循環器系に作用する薬物①	降圧薬、狭心症・心不全治療薬の主な薬物が理解できる											
12	循環器系に作用する薬物②	抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液凝固・線溶系、血液に作用する主な薬物が理解できる											
13	抗感染症薬	抗感染症作用をもつ主な薬物が理解できる											
14	抗がん薬	抗がん薬の主な薬物が理解できる											
15	皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬、	皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬の主な薬物が理解できる											
受講上の注意 事前学習として、授業で学ぶ章について閲読しておくこと 事後学習として、授業で学んだ章についてふりかえりレポートにまとめ、期日までに提出すること なお、次週に併せてその章の理解度確認テストを実施する			評価方法 筆記試験 60点 各章テスト・ふりかえりレポート 40点										
使用する e テキスト 薬理学（医学書院）		使用するテキスト 参考文献											
参考となる e テキスト													

科目No. 33		配当時期 1 年次後期	担当者
科目名	健康支援と社会保障制度 保健・医療・福祉と法規	単位数 1 単位	嘉田 真希
時間割表記名	保健・医療・福祉と法規	時間数 30 時間 (15 回)	
科目のねらい 医療従事者として国民の健康を守り、職責を正しく遂行するために、わが国の保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令を理解する 授業目標 保健医療福祉に関する法律、諸制度が理解できる 医療専門職者または個人として、法規を遵守すること、遵守されることの大切さがわかる		DPとの関連	
		人間理解	○
		倫理・関係構築	○
		看護実践	
		協同・課題解決	○
		探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	学習成果	備考
1回	法の概念が理解できる 衛生法の沿革が理解できる	法の概念、民法・刑法 現在の医療に関する法律、制度が成立するまでの沿革	講義
2回	保健師助産師看護師法が理解できる	保健師助産師看護師法の目的・定義・内容	講義
3回	看護師等の人材確保の促進に関する法律が理解できる 医療法と医療体制が理解できる	看護師等の人材確保の促進に関する法律の目的・定義、内容 医療法の目的、定義、内容	講義
4回	医療を支える法が理解できる 災害時の法が理解できる	医師法等の他職種に関する法律、臓器移植法、死体解剖保存法、 災害対策基本法、災害救助法の目的・定義・内容	講義・演習
5回	地域保健法、健康増進法が理解できる	地域保健法、健康増進法の目的・定義・内容	講義・演習
6 回	精神保健福祉法が理解できる	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、 心身喪失者等医療観察法の目的・定義・内容	講義・演習
7 回	母子保健法、母体保護法が理解できる 学校保健安全法が理解できる	母子保健法・母体保護法、学校保健安全法の目的・定義・内容	講義・演習
8 回	個別の疾病等対策に関する法令が理解できる	自殺対策基本法、がん対策基本法、肝炎対策基本法、難病の患者 に対する医療等に関する法律の目的・定義・内容	講義・演習
9 回	感染症に関する法令が理解できる①	感染症法、検疫法の目的・定義・内容	講義・演習
10回	感染症に関する法が理解できる② 食品に関する法令が理解できる	予防接種法、食品安全基本法、食品衛生法の目的・定義・内容	講義・演習
11回	薬務法が理解できる	医薬品医療機器等法、麻薬及び向精神薬取締法等の目的・定義・ 内容	講義・演習
12回	社会保険法が理解できる	健康保険法、国民健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法 律、介護保険法、国民年金法の目的・定義・内容	講義・演習
13回	福祉に関する法律が理解できる	社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、児童虐待防止法、高齢 者福祉法の目的・定義・内容	講義・演習
14回	障害分野に関する法律が理解できる 労働法と社会基盤整備に関する法律が理解できる①	障害者基本法、障害者総合支援法、障害者虐待防止法、労働基 準法、労働安全衛生法の目的・定義・内容	講義・演習
15回	労働法と社会基盤整備に関する法律が理解できる② 環境保全に関する法が理解できる	雇用保険法、育児介護休業法、環境基本法、地球温暖化対策の 推進に関する法律の目的・定義・内容	講義・演習
受講上の注意 ①授業中に毎回、看護師国家試験の過去問題で知識確認をします。 ②レポートは、医療過誤と興味のある法律と指定法律 1 つ、レポート用紙 3 枚分です。グループで発表します。 ③課題の評価は、レポート内容とグループで発表時の正確性、内容量、明確性、期限厳守です。		評価方法 課題 20 点 (レポート提出・発表) 筆記試験 80 点	
使用するeテキスト 看護関係法令 (医学書院)		使用するテキスト 公衆衛生がみえる (メディックメディア)	
参考となるeテキスト		参考文献	

科目No. 40		配当時期 1年次後期		担当者	
科目名	健康現象の疫学と統計 保健統計Ⅰ	単位数	1単位	かとう むつひこ 加藤 睦彦	
時間割表記名	保健統計Ⅰ	時間数	30時間(15回)		
科目のねらい Microsoft officeを利用した文書作成やデータの集計・分析の基本操作を習得する 各種統計を読み分析解釈する力を身に付ける 授業目標 1. 保健統計を読み、解釈する 2. PowerPointなどを用いてプレゼンテーションの力をつける 3. 情報の取り扱いについて考えることができる				DPとの関連	
				人間理解	
				倫理・関係構築	
				看護実践	
				協同・課題解決	○
				探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回数	学習内容	学習成果		備考	
1回	データの性質と尺度	データの性質について理解する			
2回	代表値	さまざまな代表値を理解する			
3回	度数分布	ヒストグラムを作成する			
4回	散布度	散布度について理解する			
5回	確率分布	確率分布、特に正規分布について理解し、 異常値の基準を理解する			
6回	散布図と相関	散布図を作成し、データの相関を理解する			
7回	クロス集計	ピボットテーブルを使用して、 クロス集計を行う			
8回～ 12回	演習：統計調査の解釈 (プレゼンテーションの準備と実施)	統計調査を行い、プレゼンテーションソフトを 使用して、プレゼンテーションを行う			
13回	動態統計	時系列データの扱いの基本を学習する			
14回 ～ 15回	演習：統計調査の解釈 (解析とレポート作成)	時系列データの調査を行い、ワープロソフトで レポートを作成する			
受講上の注意 オフィスソフトを使用しますので、 「情報の活用と情報倫理」で学習したことを復習しておいてください				評価方法 授業への参加、演習のとりくみ 課題レポート	
使用するeテキスト		使用するテキスト 情報リテラシー (FOM出版)			
参考となるeテキスト 看護情報学		参考文献			

科目No. 42		配当時期 1 年次後期		担当者 おだに きよこ 小谷 清子	
科目名 健康現象の疫学と統計 疫学Ⅰ		単位数 1 単位			
時間割表記名 疫学Ⅰ		時間数 20 時間（10 回）			
科目のねらい 疫学概念を理解し集団の健康状態を把握する方法を学ぶ				DP との関連	
授業目標 1. 歴史の中の疫学の意義を理解する 2. 集団の健康状態を把握するための指標を理解する 3. 疫学的研究方法を理解する				人間理解	○
				倫理・関係構築	○
				看護実践	
				協同・課題解決	○
				探究・成長	○
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）					
回数	学習内容		学習成果		備考
1回	疫学概念		疫学の歴史的変遷と社会に果たす役割を理解する		
2回	集団の健康状態の把握		疾病の頻度を表す指標が説明できる 曝露効果の指標 相対危険と寄与危険		
3 回	集団の健康状態の把握 演習①		リスク比、相対危険、寄与危険が説明できる		
4回	疫学的研究方法①		疫学研究における倫理について理解する		
5回	疫学的研究方法②		研究デザインについて理解する		
6回	疫学的研究方法③		誤差と偏りが説明できる 交絡とその制御方法について理解する		
7回	疫学的研究方法④		因果関係の立証について理解する 感染症の疫学調査		
8回	疾病の予防とスクリーニング		スクリーニングの目的と各指標が説明できる		
9回	疾病の予防とスクリーニング 演習②		敏感度、特異度、陽性反応的中度、偽陽性率が計算できる		
10回	まとめ 演習③		まとめの演習		
受講上の注意 疫学的なものの見方を学びます。理解できるまで質問してください。				評価方法 授業への参加、演習のとりくみ等 筆記試験	
使用する e テキスト 標準保健師講座 疫学・保健統計学		使用するテキスト			
参考となる e テキスト		参考文献			

科目No. 44		配当時期 1 年次全期 単位数 1 単位 時間数 30 時間（15 回）	担当者 阿形 奈津子
科目名 基礎看護学 看護学原論	看護学原論		
時間割表記名 看護学原論			
科目のねらい 看護の主要概念、人間の尊厳・権利を学び看護とは何かを主体的に追究する姿勢を培う 授業目標 具体的な事例や場面を通して看護に興味をもてる 看護について、人間について、健康について、環境・社会について深く考えることができる 看護理論を学び、看護とは何か、自分の言葉で語ることができる 自己の看護観を明確にする			DPとの関連 人間理解 ○ 倫理・関係構築 ○ 看護実践 ○ 協同・課題解決 探究・成長 ○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等) 環境調整			
回	学習目標と内容	方法	備考
1	1) 事例を通して、看護とは何かを考えることができる 2) 看護学の学習目標及び方法が理解できる 3) 看護の本質・ケアについて考えることができる	講義 演習	講義資料 教科書 1
2	1) さまざまな看護の定義から看護を考えることができる 2) 保健師助産師看護師法から看護を考えることができる	講義 演習	講義資料 教科書 1
3	1)事例・場面を通して看護の方法が理解できる 2)事例を通して医師の役割、看護の役割について考えられる	講義 演習	講義資料 教科書 1
4	1) 専門職とは何かが理解できる 2) 看護者の倫理綱領から看護を考えることができる	講義	講義資料 教科書 1
5	1) 看護理論についての基礎的な知識が理解できる 2) 看護理論を学ぶ意義が理解できる	講義	講義資料 教科書 1
6	1) ナイチンゲールの看護論について理解を深めることができる	講義	講義資料 教科書 2
7	1) マズローの欲求階層説が理解できる 2) ニードと生活行動の関連が理解できる 3) ヘンダーソンの看護の構成要素が理解できる	講義	講義資料 教科書 1
8	1) 看護に活用する発達理論と相互作用理論が理解できる 2) 全体性を捉えるシステム理論が理解できる	講義	講義資料 教科書 1
9	1) これからの社会に求められる看護職の能力とは何かを考えることができる 2) 社会の動向をふまえた看護職の役割について考えることができる。	講義	講義資料 教科書 1
10	看護研究発表を聴講し、先輩から看護を学び自己の看護観形成に活かすことができる	発表会 参加	課題シート
11	1) 健康の概念が理解できる 2) 看護の目指す健康について考えることができる	講義	講義資料 教科書 1
12	1) 外部環境について理解することができる 2) 環境における看護の責務について認識する	講義	講義資料
13	1) 看護活動の場と様々な保健医療職者を理解する 2)継続看護の必要性が理解できる 3)協働・連携の意義を踏まえ、その効果的な方法について考える	講義	講義資料
14	臨地実習のリフレクションを通して、看護とは何かを深めることができる	演習	リフレクションシート
15	これから展開される看護の方法（看護過程・臨床判断）について	講義	講義資料
受講上の注意 出席するとともに考える授業です。遅刻欠席のないようにしましょう。 ナイチンゲール「看護覚え書」を1冊読むことが夏期休暇中の課題です 最終は「自己の看護観」について書いてもらいます。		評価方法 筆記試験 50点 夏期休暇課題 10点＋5点 リフレクションシート 10点 自己の看護観 25点	
使用するeテキスト 1. 看護学概論（医学書院） 3. よくわかる看護職の倫理綱領（照林社） 4. 看護学生スタディガイド（照林社）		使用するテキスト 2. 看護覚え書（現代社） 参考文献 授業のなかで紹介します	

科目No. 45		配当時期	担当者	
科目名	基礎看護学	1年次前期		
	共通基本技術Ⅰ	単位数		
時間割表記名		1単位	川崎 紀子	
	共通技Ⅰ 技術論	時間数	森川 美奈子	
		20時間(10回)		
科目のねらい			D P との関連	
看護技術を構成する基本要素を学ぶ。				
授業目標				
1. 看護技術とは何か、特徴を理解する。			人間理解	
2. 全ての看護技術に含まれる「安全・安楽・自立(自律)」の考えを理解する。			倫理・関係構築	○
3. スタンダードプリコーションの技術を習得する。			看護実践	○
4. 安全を守るための技術を習得する。			協同・課題解決	○
5. 末梢循環を整える技術について理解する。			探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)				
回数	学習内容	学習成果	担当	備考
1回	科目オリエンテーション 看護技術とは何か 看護技術習得のために	技術・看護技術とは何かがわかる 技術演習にむけてグループ活動での協同の必要性を理解する	川崎	講義 演習
2回	看護技術の特徴、看護技術を適切に実践するための要素 演習・実習室使用について、技術経験録について 看護記録、報告	看護技術を実践する際に共通して含まれる要素がわかる 看護学演習にむけて準備ができる 技術経験録の意義・使用方法がわかる 看護記録の目的と留意点、その構成がわかる	川崎	講義 グループ ワーク
3回	安全を守る技術 危険予測と危険回避という考え方 Pm-SHELLモデル、ヒューマンエラー、ハインリッヒの法則	危険予測・回避の意義を理解し、事例の危険予測・回避について考察する	川崎	講義
4回	感染予防の技術(1) 見えない危険から身を守る 感染成立の三要素とプロセス	感染はどのように成立するのかを理解し、感染を予防するための基礎的な方法を理解する	川崎	講義
5回	感染予防の技術(2) スタンダードプリコーション 感染経路別予防策	スタンダードプリコーションについて理解する 感染経路別予防策を理解する 清潔区域・汚染区域の概念を理解する	川崎	講義
6回	感染予防の技術(3) 感染性廃棄物の取り扱い 医療施設における感染管理	感染性廃棄物の取り扱いを理解する 施設での感染管理について理解する	川崎	講義
7回	感染予防の技術(4) スタンダードプリコーション演習	スタンダードプリコーションの正しい手技を修得する	川崎	演習 3F実習 室
8回	感染予防の技術(5) スタンダードプリコーション技術試験 技術試験のふりかえり	スタンダードプリコーションにおける評価・課題を明らかにできる	川崎	3F実習 室 技術試験
9回	安楽確保の技術 安楽とは 苦痛の緩和・精神的安寧	援助における安楽について理解する	森川	講義
10回	末梢循環を整える技術	温電法・冷電法の効果・適応を理解し、安全に実施できる	森川	演習 3F実習 室
受講上の注意			評価方法	
看護は、看護の対象になる人々に働きかけていくことが求められる職業です。授業がそのレッスンになるように、他者との話し合いや発表を通して考察しましょう。また、能動的に参加することをめざしてください。			課題20点(川崎) 技術試験10点 筆記試験70点(川崎50点+森川20点)	
使用するeテキスト		使用するテキスト		
基礎看護技術Ⅰ		看護覚え書(現代社)		
基礎看護技術Ⅱ				
参考となるeテキスト		参考文献		
医療安全				

科目No. 46		配当時期 1 年次前期	担当者	
科目名	共通基本技術 II	単位数 1 単位	川崎 紀子	
時間割表記名	共通技 II コミュニケーション	時間数 20 時間（10 回）		
科目のねらい 対象との関係を構築するための基礎及び対象も権利尊厳を守る技術を学ぶ			DPとの関連	
授業目標 1. 看護におけるコミュニケーションの意義と特徴を理解する 2. コミュニケーションに影響するもの・近似的コミュニケーションについて理解する 3. 近似的コミュニケーション技術を用いて、受容・共感・傾聴にとりくむ			人間理解	○
			倫理・関係構築	○
			看護実践	○
			協同・課題解決	○
			探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)				
回数	学習内容	学習成果	備考	
1回	看護におけるコミュニケーション コミュニケーションとは、人間のコミュニケーションの特徴 コミュニケーションの構成要素と成立過程	人間関係を構築するための土台であるコミュニケーションの重要性とコミュニケーションが成立するためのプロセスを理解する	講義	
2回	ミスコミュニケーション	ミスコミュニケーションが生じる理由について理解する	演習	
3回	関係構築のためのコミュニケーションの基本 尊厳を支える「見る」「話す」「触れる」 近似的コミュニケーションの原理	「尊厳」とはどのようなことか、「尊厳」を守ることにつながるコミュニケーション、近似的コミュニケーションについて、理解する	講義	
4回	演習1；近似的コミュニケーションとしての距離 対人距離とパーソナルスペース	対人距離、パーソナルスペースが、どのようにコミュニケーションの成立に影響するのか、体験を通して学ぶ	3F実習室 演習	
5回	リフレクション 演習1について	演習1のリフレクションを共有し、対人距離・パーソナルスペースとコミュニケーションの関係について理解を深め、自己の課題を考える	発表 講義	
6回	効果的なコミュニケーションの実際 聴く技術：質問技法 情報収集の技術、説明の技術	近似的行動と非近似的行動について理解できる。 良好なコミュニケーションに必要な聞くための技術について学ぶ。	講義	
7回	効果的なコミュニケーションの実際 「受容」「共感」「傾聴」の技術 アサーティブネス	看護におけるコミュニケーションの軸となる「受容」「共感」「傾聴」の技術について学ぶ アサーティブネスとは何かを理解する	講義	
8回	演習2：「聴く」技術の体験 「受容」「共感」「傾聴」の技術	看護におけるコミュニケーションの軸となる「受容」「共感」「傾聴」とは、どのような技術か、体験を通して学ぶ	講義 演習	
9回	対人関係の振り返り プロセスレコードによる場面の再構成	プロセスレコードの書き方が分かる。プロセスレコードにより自己を振り返ることができる	講義 演習	
10回	リフレクションとブラッシュアップ 演習について	演習2のリフレクションを共有し、「受容」「共感」「傾聴」における自己の課題を明らかにし、改善方法を考える	発表 講義	
受講上の注意 演習を取り入れながら自己のコミュニケーションについて振り返ることで効果的なコミュニケーションについて考える時間とします。			評価方法 課題点30点 筆記試験70点	
使用するeテキスト 基礎看護技術 I 参考となるeテキスト 人間関係論			使用するテキスト 参考文献 川口孝康、ベッドまわりの環境学、医学書院	

科目No. 47		配当時期	担当者
科目名	基礎看護学 共通基本技術Ⅲ	1 年次前期 単位数 1 単位	森川美奈子
時間割表記名	共通技Ⅲ バイタルサイン・フィジカルアセスメント	時間数 3 0 時間（1 5 回）	
科目のねらい バイタルサインとフィジカルアセスメントに関する知識の理解と正しい測定技術、測定値のアセスメントができる			
授業目標 1.バイタルサインの測定に必要な知識の理解、根拠にもとづく正しい測定、測定値のアセスメントができる 2.アセスメント、ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントについて理解しフィジカルイグザミネーションの技術を実施できる 3.測定を実施する際は目的と根拠を明確にして、対象者への安全・安楽・自立・倫理に配慮することができる		DPとの関連	
		人間理解	○
		倫理・関係構築	○
		看護実践	○
		協同・課題解決	○
		探究・成長	○
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回数	学習内容	学習成果	備考
1回	1.授業ガイダンス 2.ヘルスアセスメントとは 3.観察と問診 4.フィジカルアセスメントに必要な技術と実施時の留意点	1.授業に必要な事前学習、必要物品が理解できる 2.ヘルスアセスメントの意義と目的が理解できる 3.看護師として、観察の重要性が理解できる	講義
2回	1.バイタルサインの観察とアセスメント	1.バイタルサインの定義と測定の意義が理解できる	講義
3回	1.体温・脈拍・呼吸の知識と測定の技術	1.バイタルサインの知識と測定の技術が理解できる	講義
4回	1.血圧の知識と測定の技術	1.血圧測定に必要な知識が理解できる 2.正しい血圧測定方法が理解できる	講義
5回	1.血圧測定の実際	1.血圧を正しく測定できる。	演習
6回 7回	1.バイタルサイン測定の実際	1.体温・脈拍・呼吸を正しく測定できる 2.バイタルサイン測定の正しい記録と報告ができる	演習
8回	1.フィジカルアセスメントとは 2.フィジカルアセスメントに必要な技術、身体計測について	1. フィジカルアセスメントに必要な知識が理解できる	講義
9回	脳神経系のフィジカルアセスメント	脳神経系のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識を理解できる	講義
10回	呼吸器系のフィジカルアセスメント	呼吸器系のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識を理解できる	講義
11回	循環器系のフィジカルアセスメント	循環器系のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識を理解できる	講義
12回	腹部のフィジカルアセスメント	腹部のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識を理解できる	講義
13回 14回	1. 脳神経系のフィジカルアセスメントの実際 2. 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際 3. 循環器系のフィジカルアセスメントの実際 4. 腹部のフィジカルアセスメントの実践 5. 身体計測についての実践	1. 脳神経系のフィジカルアセスメントを実施できる 2. 呼吸器系のフィジカルアセスメントを実施できる 3. 循環器系のフィジカルアセスメントを実施できる 4. 腹部のフィジカルアセスメントを実施できる 5. 身体計測の実施ができる	演習
15回	1.実技試験 1)体温・脈拍・呼吸・血圧測定 2)記録・報告	1.正しい測定と記録・報告ができる 2.対象者の安全と安楽、自立、倫理に配慮して実施できる	技術試験
受講上の注意 1.事前学習をして主体的に調べ学習を行って授業に臨み理解を深めるようにしましょう 2.看護技術の実践にふさわしい身だしなみと振る舞いで演習に臨みましょう 3.グループでの演習は、限られた時間のため学習目標の達成に向けて仲間と協同して教え合い高め合いましょう			評価方法 1.筆記試験80点、課題点10点 2.技術試験10点
使用するeテキスト		使用するテキスト 看護がみえる③フィジカルアセスメント（メディックメディア）	
参考となる e テキスト 解剖生理学		参考文献	

科目No. 50		配当時期 1 年次前期		担当者 川崎 紀子	
科目名 基礎看護学		単位数			
生活支援技術Ⅰ		1 単位			
時間割表記名 生活技Ⅰ 環境調整・活動・休息		時間数 30 時間（15 回）			
科目のねらい 人間の生活における環境と活動・休息の意義を理解し、環境を整え、活動・休息を支援する技術を学ぶ。				DPとの関連	
授業目標 1. 対象者の療養環境を適切に整える技術を習得する。 2. 活動・休息の意義を理解し、対象者の自立を促進し、安全・安楽・尊厳を守る技術の基礎を学ぶ。 3. 人間の生活行動の基本動作を獲得する支援技術を学ぶ。				人間理解	○
				倫理・関係構築	
				看護実践	○
				協同・課題解決	○
				探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
環境調整					
回数	学習内容		学習成果		備考
1回	1. 環境とは 2. 人間と環境の関係 3. 療養生活と環境		・人間にとって環境とは何かを理解する。 ・療養生活における環境について理解する。		講義
2回	4. 療養環境を調整する方法 1) 心地よい療養環境とは 2) 療養環境を調整する視点と方法		・心地よい療養環境の意義を考察し、療養環境を整えるためのアセスメント及び具体的方法を理解する。		講義
3回 4回	5. 心地よい寝床環境を作る方法 1) リネン類の準備 2) ベッドメイキングの方法		・ベッドメイキングに必要な物品を確認する。 ・ベッドメイキングの方法を動画で学習し、授業で再確認し、理解する。		演習 3階実習室
5回	3) 作成したベッドの評価 4) シーツ交換		・作成したベッドを評価し、ベッドメイキングにおける課題を確認する。 ・シーツ交換の方法を理解する。		演習 3階実習室
6回	6. ベッド周囲の環境整備 1) 状況に応じた療養環境の調整 2) 臥床患者のシーツ交換		・対象に必要な療養環境について考える。 ・状況に応じた療養環境を作成する。 ・臥床患者のシーツ交換方法を理解する。		演習 3階実習室
7回 8回	ベッドメイキング技術試験		・技術試験の準備を通して、心地よい寝床環境を整える技術を習得する。 ・試験の結果から、自己のベッドメイキングにおける課題を認識する。		技術 試験
活動・休息					
1回	1. ボディメカニクス		・ボディメカニクスの活用の意義とその方法を理解する。		講義
2回	2. 人間と活動 1) 基本的活動の基礎知識 2) 体位 3) 移動		・日常生活における活動の意義を理解する。 ・人間の基本動作がわかる。 ・姿勢保持・運動・活動のメカニズムと各器官のはたらきを理解する。		講義
3回	3. 臥床による弊害について		・臥床による弊害・廃用症候群・体圧測定の結果と褥瘡発生の関係がわかる。 ・褥瘡予防の看護を考えることができる。		講義 演習
4回 5回	4. 臥床による弊害を防ぐ技術 1) ポジショニング 2) 体位変換		・移動（体位変換・歩行・移乗・移送）の援助方法を理解し、技術を習得する。 ・対象の特徴・状況を考え自立に向けた支援方法について考える。		演習 3階実習室
6回	5. 人間にとっての睡眠・休息 1) 睡眠・休息の意義 2) 睡眠のアセスメント 3) 睡眠・休息の援助		・休息や睡眠の意義を理解し、その援助技術を理解する。		講義
7回	6. 臥床状態の患者の環境調整		・対象の状態・状況に応じた環境調整を実施できる。		演習 3階実習室
受講上の注意 技術習得には個人の反復練習が必要です。授業では、意義・原理原則の理解が必要です。 How to のみ覚えるレベルにならないように何故そうするのか、考え理解できるように努力して下さい。				評価方法 技術試験 環境調整 10 点 課題 10 点 筆記試験 80 点	
使用するeテキスト 基礎看護技術Ⅱ		使用するテキスト 参考文献			
参考となるeテキスト					

科目No. 51		配当時期 1 年次後期	担当者 1回目から7回目：食事 担当：森川 美奈子 8回目から15回目：排泄 担当：筒井 恵美
科目名 基礎看護学 生活支援技術Ⅱ	単位数 1 単位	時間数 30 時間（15 回）	
時間割表記名 生活技Ⅱ 食事・排泄			
科目のねらい 食事や排泄の生活行動に支障をきたしている対象者への生活支援の技術を学ぶ			DPとの関連
授業目標 1. 人間の健康にとって食事や排泄の意義が理解できる。 2. 食や排泄に障害のある対象の生活を支える援助が習得できる。			人間理解 ○ 倫理・関係構築 ○ 看護実践 ○ 協同・課題解決 ○ 探究・成長 ○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	学習成果	備考
1回目	生理的・心理的・社会的意義 食と栄養の基礎知識・アセスメント	人間にとっての食の意義が理解できる。 栄養状態、食欲、摂食行動をアセスメントする視点が理解できる。	講義・GW
2回目	食行動に障害がある対象の理解	食事介助を必要とされる対象に対して看護を考えることができる。	講義・GW
3回目	食行動に障害がある対象への援助	自力では、食事摂取動作が行えない対象への援助方法を理解でき、実践できる。	演習 (実習室)
4 回目	摂食・嚥下障害のある対象への援助	摂食・嚥下障害のある対象への援助方法が理解できる。	講義
5回目	食事介助の必要な対象への援助	安全・安楽・自立の視点で状況に応じた援助ができる。 嚥下障害のある対象への援助方法を理解できる。	演習 (実習室)
6回目	様々な栄養摂取方法	食事、栄養に関する援助方法の種類と適応が理解できる。 (経口摂取法、経管栄養法、経静脈栄養法)	講義
7回目	経鼻胃管栄養法の実際	経鼻胃管栄養法が理解できる。	演習 (実習室)
8回目	排泄の意義 排泄の知識・アセスメント	・人間にとっての排泄の意義が理解できる。 ・排泄に関するアセスメントの視点が理解できる。	講義・GW
9回目	自然排泄の介助の実際	・排泄行動を介助する上で対象の状況に応じた排泄用具の選択ができ、使用できる。 (尿器・便器・ポータブルトイレ・オムツの種類と適応)	演習 (実習室)
10回目	排便障害のある対象への援助	排便を促す援助の方法が理解できる (温電法・腹部マッサージ・摘便・浣腸・座薬)	講義
11・12回目	排便障害のある対象への援助の実際	・温電法・腹部マッサージを実践できる。 ・浣腸・摘便・座薬の挿肛をモデル人形を用いて実践できる。	演習 (実習室)
13・14回目	排尿障害のある対象への援助の実際	・①導尿の目的・方法・留意点 ②膀胱留置カテーテルの目的・方法・管理 が理解できる。 ・モデル人形を用いて導尿が実践できる。(一時導尿・持続的導尿)	演習 (実習室)
15回目	食と排泄に関する知識と技術の統合	・単元のまとめ	講義・GW
受講上の注意 ＊ 演習の際は白衣またはトレーニングウェアで行います。服装を整えて臨みましょう。 ＊ 演習の際は事前学習をして臨みましょう。			評価方法 筆記試験 食事35点、排泄35点 課題提出 食事15 点、排泄15点
使用するeテキスト 基礎看護技術Ⅱ 参考となるeテキスト 解剖生理学		使用するテキスト 参考文献	

科目No. 52		配当時期 1年次後期 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)		担当者 川崎 紀子	
科目名 基礎看護学 生活支援技術Ⅲ 時間割表記名 生活技Ⅲ 清潔					
科目のねらい 衣服と身体の清潔の意義を理解し、更衣・身体の清潔を支援するための技術を学ぶ。 授業目標 1. 皮膚・粘膜の解剖・生理を理解し、清潔を保持する意義を考察する。 2. 対象者の清潔のニーズをアセスメントする視点を理解し、適切な援助方法を選択する。 3. 実施した援助を評価する視点を理解する。 4. 自己の援助技術について評価し、基礎的な清潔援助技術を習得する。				DPとの関連	
				人間理解	○
				倫理・関係構築	○
				看護実践	○
				協同・課題解決	
				探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回数	学習内容		学習成果		備考
1回	1. 清潔とは 1) さまざまな清潔援助技術 2) 清潔の意義・衣生活の意義 3) 清潔ニーズ・衣生活のニーズのアセスメント		・皮膚・粘膜の構造と機能を理解する。 ・人間にとっての清潔の意義、衣生活の意義を考察する。 ・清潔のニーズ、衣生活のニーズをアセスメントする方法を理解する。		講義 小テスト
2回	2. 清潔援助に必要な基礎知識 1) 汚れを落とすしくみ(湯・石けん・摩擦) 2) 入浴の作用(温熱・静水圧・浮力)		・湯・石けん・摩擦の汚れを落とすメカニズムと、入浴の作用と生体に及ぼす影響を理解する。		講義
3回	3) 心地よい湯の温度の検証		・個別性と安全・安楽を考慮した心地よい清潔援助の必要性について考察する。		演習 3階実習室
4回	3. 清潔援助技術 1) 技術演習計画シート作成 2) 技術演習		・チームで援助技術を分担し、分担した技術の目的・方法を共有し、確認する。		演習 3階実習室
5回	3) チーム毎に演習計画を立て実施・評価 (1) 整容・口腔ケア (2) 病衣・寝衣の交換		・各チームで、演習計画を立てて臨む。 ・演習の指導を担当し、自分の担当する技術の練習をして臨む。 ・メンバーは、テキストを参照し、学習内容を確認したうえで臨む。 ・メンバー全員が協力し、それぞれの技術の習得を目指す。		
6回	(3) 足浴・手浴				
7回	(4) 陰部洗浄				
8回	(5) 洗髪、入浴・シャワー浴の介助				
9回	(6) 全身清拭 ①				
10回					
11回	(7) 全身清拭 ②				
12回					
13回	4) チーム毎のまとめ		・チーム毎に不足部分を確認し、それぞれの技術を習得する。		
14回 15回	全身清拭技術試験		・各自、技術練習をして技術試験に臨む。 ・技術実践の目的、実践の振り返り、実践評価から自己の課題を理解する。		技術試験 3階実習室
受講上の注意 清潔援助技術の演習は、学生同士で行います。皮膚を露出する機会が多いので、患者役の学生のプライバシー保護に配慮して取り組みましょう。 3回目以降は、全て3F実習室で行います。学校指定のボロシャツ・トレーニングウェアもしくはナースウェアで臨んでください。 清拭・洗髪・足浴等に使用するシャンプー、トリートメント、石けん、タオル、バスタオル、パジャマ等は、各自で準備して下さい。			評価方法 1. 技術試験 10点 2. 課題 20点 3. 筆記試験 70点		
使用するeテキスト 基礎看護技術Ⅱ 参考となるeテキスト 解剖生理学			使用するテキスト 参考文献		

科目No. 53		配当時期 1年次後期		担当者	
科目名 基礎看護学 診断治療に伴う技術Ⅰ		単位数 1単位		森川 美奈子	
時間割表記名 診治技Ⅰ BLS 無菌操作 吸引・酸素		時間数 30時間(15回)		大津 惇也	
科目のねらい 健康障害を持つ対象者の診断・治療の意義を理解し、診断・治療に伴う基礎的な技術を学ぶ。 授業目標 1 消毒・滅菌の違いを理解し、感染予防のために必要な技術を習得できる 2 BLSに必要な知識・技術を習得できる 3 呼吸・循環を整える技術の方法が理解できる				DPとの関連	
				人間理解	
				倫理・関係構築	○
				看護実践	○
				協同・課題解決	○
				探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回数	学習内容	学習成果		担当	備考
1回目	滅菌物の取り扱いの原則と基本 滅菌物の取り扱い応用編	洗浄・消毒・滅菌の基礎知識を習得できる 滅菌物取り扱いの原則と倫理的態度を理解できる		大津	講義
2回目		滅菌物開封～物品使用後の処理までを理解し実践できる		大津	講義・演習
3回目		滅菌手袋の装着・ガウンテクニックの理解 鉗子操作における処置介助ができる		大津	講義・演習
4回目	BLS：Basic Life Support (一次救命処置)	最新のガイドラインを踏まえ、BLSに必要な知識を習得できる		大津	講義
5回目		一次救命処置に必要な手技（意識確認・応援要請・ 胸骨圧迫・ストレッチャー移送）を実践できる		大津	演習
6回目				大津	
7回目	呼吸・末梢循環を整える技術	呼吸・循環を整える技術が必要な対象の状態とその方法が理解できる		森川	講義
8回目	呼吸法・排痰ケア	排痰ケアの目的と方法が理解できる		森川	講義
9回目10回目	吸引法・吸入法	吸引法に必要な物品、機器の取り扱いが理解できる 吸入の方法が理解できる		森川	講義
11回目	酸素療法について	酸素の取り扱いが理解できる 酸素吸入療法と方法が理解できる		森川	講義、演習
12回目	末梢循環を整える技術 包帯法	包帯法を理解でき、実践に繋げる事ができる		森川	講義、演習
13回目	吸引の実践	安全・安楽に一時的吸引法が実践できる		森川	演習
14回目	吸引 吸入 酸素療法	安全・安楽に一時的吸引法が実践できる 酸素の取り扱いについて実践できる		森川	演習
15回目	排痰ケア（体位ドレナージなど） 包帯法などの実践	排痰ケア（体位ドレナージなど）について実践できる 包帯法の実践ができる		森川	演習
受講上の注意 倫理的態度の実践について考えておこう！ 人体の構造と機能を復習しておこう！				評価方法	
				筆記試験 森川:45点 /大津:10点 課題提出状況 森川:15点 /大津:10点 実技試験 大津:20点	
使用するeテキスト 基礎看護技術Ⅱ 参考となるeテキスト				使用するテキスト 参考文献	

科目No. 55		配当時期	担当者
科目名	地域・在宅看護論 地域・在宅看護概論	1 年次全期	上山 みゆき
時間割表記名	地域・在宅看護概論	単位数 1 単位	こばやし あつみ 小林 厚美
		時間数 30 時間（15 回）	
科目のねらい 暮らしの様々な場の理解と対象の特徴について理解する。 地域・在宅看護の目的と社会に求められる在宅看護の役割について理解する 授業目標 在宅看護の意義・目的、対象を理解し、 対象の生活の場での看護の役割について理解できる。		D P との関連	
		人間理解	○
		倫理・関係構築	○
		看護実践	
		協同・課題解決	
		探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	学習成果	備考
1	地域・在宅看護の概念	・地域・在宅看護論を学ぶ目的がわかる ・在宅ケアを必要とする背景をふまえて在宅看護の必要性について考える	講義・GW
2	地域・在宅看護の目的と位置づけ	地域ケア・在宅ケアにおける在宅看護の位置づけが説明できる 在宅ケアにおける地域・在宅看護の目的、役割について考える	講義・GW
3	地域の生活環境と対象	地域で暮らす人々をイメージし、生活の場の価値観と多様性について考える	講義・GW
4		健康の多様性と健康をとらえる看護の視点がわかる 在宅看護が提供される場と対象の様々な健康状態の概要がわかる	講義 演習
5	在宅看護の基本理念（1）	在宅看護の基本理念を理解し、地域・在宅看護に必要な基本的態度の基盤がわかる	講義
6	在宅看護の基本理念（2）	在宅療養者の権利保障とQOL、自立支援のための意志決定支援について考える	講義・GW
7	在宅療養を支える社会資源	地域にある多様なコミュニティの場がわかる 社会資源の種類と活用する意義がわかる	講義
8		社会資源を活用するための看護の視点が理解できる 社会資源の活用に伴うケアマネジメントの概念が理解できる	講義・GW
9	在宅看護に関連する制度（1）	地域・在宅看護の実践の場が理解できる 看護が提供される多様な場を踏まえて、ライフステージに対応する主な法・制度がわかる	講義 演習
10	在宅看護に関連する制度（2）	在宅看護を提供する実施機関の特徴がわかる 訪問看護制度に位置づく訪問看護活動の特徴を知る	講義
11	在宅看護に関連する制度（3）	地域療養を支える関連制度と関連職種について理解を深める 訪問看護制度の理解を深め、医療保険と介護保険の使い分けが理解できる	講義
12	訪問看護活動の実践（1）	訪問看護の実践を通して生活の場で看護をするということについて考える *フィールドワーク課題あり	講義 (小林)
13	在宅におけるチームケア	在宅療養の成立要件が理解できる 在宅での継続看護の意義が理解できる 多職種連携・地域連携の概念と意義が理解できる	講義
14	訪問看護活動の実践（2）	訪問看護活動の実践を通して関連する多施設、他職種との連携に必要な観点がわかる	講義 (小林)
15	地域・在宅看護の特徴 まとめ	暮らしを支える地域・在宅看護の特徴と訪問看護師の役割と機能が理解できる	講義 演習
受講上の注意 地域の生活者の視点で在宅看護を幅広くとらえてみよう！ 生活を取り巻く制度と変化にアンテナをはっておく。		評価方法 課題点 小林15点 上山5点 筆記試験 上山80点	
使用するeテキスト 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 参考となるeテキスト 看護学生スタディガイド		使用するテキスト 参考文献 授業の中で紹介します	

科目No. 58		配当時期 1年次後期		担当者	
科目名 健康回復支援総論		単位数 1単位		石束 佳子	
時間割表記名 健康回復支援総論		時間数 30時間(15回)			
科目のねらい 健康障害を持つ対象者を理解し、健康状態に応じて看護を提供する能力を培う 授業目標 1. 健康障害をもつ人の経過別看護、主要症状別看護、治療処置別看護の考え方が理解できる 2. 既習の知識を活用して、scenarioの看護を考えることができる				DPとの関連	
				人間理解	○
				倫理・関係構築	○
				看護実践	○
				協同・課題解決	○
				探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回数	学習内容	学習成果			備考
1回	科目ガイダンス 患者心理 病期の特徴と看護の役割	健康障害を持つ人の基本的な看護の考え方が理解できる 患者心理が理解できる 病期判断と病期の特徴に応じた看護の役割が理解できる			講義 演習 ワークシート
2回	急性期の看護 急性期とは、急性期の特徴 急性期の看護がめざすもの	急性期にある患者の特徴を理解し、病期に応じた看護が理解できる 事例を通して、急性期にある患者の看護を考えることができる			講義 演習 ワークシート
3回	回復期・慢性期の看護 回復期・慢性期の特徴 回復期・慢性期の看護がめざすもの	回復期・慢性期にある患者の特徴を理解し、病期に応じた看護が理解できる 事例を通して、回復期・慢性期にある患者の看護を考えることができる			講義 演習 ワークシート
4回	症状別看護① 黄疸のある患者の看護	黄疸のメカニズムを理解し、黄疸のある患者の看護を創造する			講義 演習 ワークシート
5回	症状別看護② 浮腫のある患者の看護	浮腫のメカニズムを理解し、浮腫のある患者の看護を創造する			講義 演習 ワークシート
6回	治療・処置別看護① 安静療法	安静とは何かが理解できる 安静療法の意義が理解でき、安静療法における看護者の役割を認識する			講義 演習 ワークシート
7回	治療・処置別看護② 薬物療法	薬物療法における看護職の役割を理解する 薬物療法における看護において、必要な基本的な知識を知る			講義 演習 ワークシート
8～13回	シナリオの看護を考える PBL(問題基盤型)学習	チーム毎にシナリオを理解し、経過別看護・治療別看護・症状別看護・個別性の看護を統合して、根拠に基づいた看護を創造する			小テスト 課題 グループワーク
14回 15回	学習内容発表	チームの発表・討議を経て、クラスで、シナリオの看護について発表する			課題
受講上の注意 事例を用いて理解を深めていきます。チームでの学習が多くなるので、協力し合い、お互いに思考をブラッシュアップすることをめざしてください。課題は必ず提出してください。				評価方法 筆記試験 課題 出席点・・・完全出席5点	
使用するeテキスト				使用するテキスト 必要に応じて、資料を配付します。	
参考となるeテキスト 臨床看護総論 病態生理学				参考文献 看護学生スタディガイド(照林社)	

科目No. 62		配当時期 1年次前期 単位数 1単位 時間数 20時間(10回)		担当者 安藤 えつ子	
科目名 公衆衛生看護学 公衆衛生看護学概論Ⅰ 時間割表記名 公衆衛生看護学概論Ⅰ					
科目のねらい 公衆衛生の理念と目的を基盤にした公衆衛生看護活動の対象と場、方法を理解する 授業目標 1. 公衆衛生の理念と目的を理解する 2. 公衆衛生看護活動の対象と場を理解する 3. 公衆衛生看護活動の展開方法の概略が分かる				DPとの関連	
				人間理解	○
				倫理・関係構築	○
				看護実践	
				協同・課題解決	
				探究・成長	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
	学習内容	学習成果			備考
1～2回	公衆衛生看護の概念	公衆衛生看護の理念と公衆衛生看護の目的・目標を理解する			
3回	公衆衛生看護の対象	個・家族、組織、集団、地域を対象としてとらえることができる			
4～5回	公衆衛生看護の場	保健所、保健センター、福祉部門 国、都道府県、市町村の役割、産業・学校保健の役割が分かる			
6～7回	人々の健康に影響する背景・要因と健康課題	地域や社会の動向、人々の健康に影響する背景 要因と健康課題が理解できる			
8回	公衆衛生看護の活動方法	公衆衛生活動の展開の基盤となる知識を身に付ける 生活と健康、個・集団へのアプローチ			
9回	公衆衛生看護の歴史と発展	公衆衛生看護の歴史から課題と展望について考えることができる			
10回	生活することと人々の健康	住民を生活者としてとらえることができる			
受講上の注意 グループワークで理解を深めますので、積極的に参加して学んでください 課題は必ず提出してください				評価方法 筆記試験(50点) 課題(50点)	
使用するeテキスト 標準保健師講座①公衆衛生看護学概論 参考となるeテキスト 公衆衛生		使用するテキスト 国民衛生の動向(厚生労働統計協会) 参考文献			

科目No. 63		配当時期 1 年次後期 単位数 1 単位 時間数 20 時間（10 回）	担当者 安藤えつ子
科目名 公衆衛生看護学 公衆衛生看護学概論Ⅱ 時間割表記名 公衆衛生看護学概論Ⅱ			
科目のねらい 社会の変化と健康課題の関連を検討し、課題解決の方法を探る力を身に付ける		DPとの関連	
授業目標 1. 社会の変化と健康課題の関連が分かる 2. 健康課題を解決する方法を考える力を身に付ける		人間理解	○
		倫理・関係構築	○
		看護実践	
		協同・課題解決	○
		探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
	学習内容	学習成果	備考
1回～ 2回	データから把握する社会の変化と健康課題	データに基づく社会の変化と健康課題の関連を考える	国民衛生の動向の説明
3回～ 4回	社会環境の変化と公衆衛生看護	現在起こっている健康課題について考えることができる	国民衛生の動向を読む
5回～ 6回	保健医療福祉システムと保健師	健康課題に対応した施策について調べることができる	レポート課題
7回～ 10回	地域の健康課題と健康課題に対する取り組み	京都市南区の健康課題を探る	
受講上の注意 グループワークで学びを深めます。積極的に参加してください 課題は必ず提出してください		評価方法 課題（100点）	
使用するeテキスト 標準保健師講座①公衆衛生看護学概論 参考となるeテキスト 公衆衛生		使用するテキスト 国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 参考文献	

科目No. 66		配当時期 1 年次後期 単位数 1 単位 時間数 20 時間（10 回）	担当者 松本 留美
科目名 公衆衛生看護学 公衆衛生看護展開論Ⅰ 時間割表記名 公衆衛生看護展開論Ⅰ			
科目のねらい 地域の特性を捉え、地域の健康課題の明確化、支援計画立案の過程を理解する （地域アセスメント過程の理解） 授業目標 1. 公衆衛生看護学は、地域社会で生活しているすべての人々の「健康」と「生活の質の向上」を 目指していることが理解できる 2. 地域アセスメント過程と用いる理論(コミュニティ・アズ・パートナーモデル)を理解できる 3. 演習から対象が生活する地域の特性について理解を深める			DP との関連 人間理解 倫理・関係構築 看護実践 協同・課題解決 探究・成長
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等）			
回数	学習内容	学習成果	備考
1回	地域をアセスメントする視点の理解	・地域診断の意義と目的を学ぶ ・地域診断の実際を理解する（DVD視聴）	
2回	地域をアセスメントする視点の理解	・小テスト<出席者のみ> ・衛生の主要な指標について理解できる ・コミュニティ・アズ・パートナーモデルを学ぶ	
3回	地区踏査の準備	・小テスト<出席者のみ> ・衛生の主要な指標について理解できる ・コミュニティ・アズ・パートナーモデルを学ぶ	～持ち物～ <各グループ毎> 付箋等、地図に印 をつけやすいもの
4回		・小テスト<出席者のみ> ・地区踏査に向けて準備、経路、方法を検討できる ・地区踏査計画書を記入できる	
5回	地区踏査	・得られた情報の意味を考えながら地域の特性・特徴を 把握できる(実感的情報)	2コマ続き
6回			
7回	発表準備	・担当地区の情報を整理し地域の特性を把握できる ・報告媒体の工夫、報告内容を検討し、報告の準備が できる	
8回			
9回	発表	・担当地区の特徴をわかりやすく報告することができる ・他のグループの発表から地域を理解する視点を学ぶこと が出来る ・地域を理解する意義を考える	
10回			
受講上の注意 グループワークが主体となる授業です。 地区踏査は、必須です。よって、欠席の場合は、別途補充が必要です。		評価方法 授業態度、グループワーク参加状況、 個人レポート、小テスト、課題、 発表で総合評価します	
使用するeテキスト 標準保健師講座①公衆衛生看護学概論 公衆衛生がみえる 参考となるeテキスト		使用するテキスト 国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 参考文献	

科目No. 80		配当時期 1 年次全期	担当者
科目名	老年看護学	単位数	筒井 恵美 (1～13回)
	老年看護学概論	1 単位	
時間割表記名	老年看護学概論	時間数	仕明 真理子 (14～15回)
		30 時間 (15 回)	
科目のねらい 老年期の対象の特徴を理解し、老いを取り巻く社会を理解する		D P との関連	
授業目標		人間理解	○
1. 高齢者の身体的・精神心理的・社会文化的特徴を理解する。		倫理・関係構築	○
2. 保健医療福祉制度、介護保険制度の概要を理解する。		看護実践	
3. 認知症のある高齢者の看護を理解する。		協同・課題解決	○
4. 高齢者のおかれている社会的状況を理解する。		探究・成長	○
5. 老年看護の役割と責任を理解する。			
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
	学習内容	学習成果	備考
高齢者の特徴と老年看護の原理			
1回目	老いを考える	・老いるということはどういうことが理解できる ・高齢者の生理的特徴が理解できる	講義
2回目	加齢に伴う変化①	・身体的な変化が理解できる。	講義
3回目	加齢に伴う変化②	・身体的な変化に対するアセスメントができる	ワーク
4回目	加齢に伴う変化③	精神・心理的、社会・文化的変化が理解できる	講義
5・6回目	老いの疑似体験	・体験をもとに、加齢に伴う特徴が理解できる ・高齢者への援助の在り方について考えることができる	GW
7回目	高齢社会の統計学的輪郭	・我が国の高齢化と高齢者の健康状態が理解できる ・人口動態について理解できる	講義 ワーク
8回目	療養生活を支える 保健医療福祉施設の特徴と看護	・療養生活を支える施設の種類と特徴が理解できる ・療養生活の場に求められる看護の役割が理解できる	講義
9回目	高齢者の生活史	・高齢者が歩んできた人生について考える。 ・生活史の意義を理解する。	ワーク
10回目	認知症高齢者との関わり方	認知症について学んだことを活用し、ロールプレイで関わり方を実施することができる。	ワーク
11回目	社会の中の高齢者	・社会の中での高齢者に関連する事柄について調べる	ワーク
12回目		・調べたことを共有する。(発表)	発表
13回目	老年看護の原理	・老年看護の基本的な考え方が理解できる。 ・老年看護の役割と責任について考えることができる	講義
高齢社会と社会保障・認知症と高齢者			
14回目	認知症とは	・認知症とは何かを考えることができる ・認知症の原因と評価基準が理解できる ・基本的な関わり方を理解できる。	講義
15回目	認知症高齢者と社会保障	・保障制度から認知症高齢者を捉えることができる ・オレンジプランについて理解できる	講義
受講上の注意		評価方法	
老年看護学の基礎となる部分です。積極的に参加しましょう。		筆記試験 (筒井 60点/仕明 10点)	
高齢者の背景にあるものを理解しようとする姿勢をもって臨みましょう。		課題提出 (筒井30点)	
使用する e テキスト		使用するテキスト	
老年看護学			
老年看護 病態・疾患論			
参考となる e テキスト		参考文献	
		高齢者白書 内閣府 国民衛生の動向	

科目No. 87		配当時期 1年次後期	担当者
科目名 母性看護学 母性看護学概論	単位数 1単位	野間 裕子 の ま ゆ う こ	
時間割表記名 母性看護学概論	時間数 20時間(10回)		
科目のねらい 女性の一生を通しての健康をライフサイクル全体で考え女性の健康保持・増進と母性機能を円滑に遂げていくための母性看護の役割・機能を総合的に学ぶ			DPとの関連
授業目標 母性とは何か、リプロダクティブヘルスライツを基本に性と生殖の意義を理解する 母性を取り巻く環境との関連から母性看護の対象の健康課題を理解し、看護の役割について学ぶ			人間理解 倫理・関係構築 看護実践 協同・課題解決 探究・成長
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	学習成果	備考
1回	母性とは、母性看護とは プレコンセプションケア	母性をめぐるさまざまな定義を理解し、母性看護における母性の捉え方について理解を深めることができる プレコンセプションケアについて理解することができる	
2回	リプロダクティブヘルスライツヘルスケア	喫煙とアルコール、性感染症、月経に関連するケアなど現代女性に関わる課題と看護について学ぶ	
3回	セクシュアリティ(人間の性)	性に関する看護の定義および人間にとつての性の意義について理解する。多様な性について知り、性的マイノリティの人々がもつ問題や支援を考えることができる	
4回	母子保健の動向(世界と日本) 母性看護の歴史的変遷と現状	世界と日本の母子保健の動向と課題について理解する 母性および父性の歴史的変遷について理解する	
5回	母性看護に関する理論 母性看護における法律、施策	母性看護に関する理論について文献を用いて学ぶ (母性看護における思考過程、ウェルネス、母子相互作用など) 母性看護に関わる法律、施策を学ぶ	
6回	母性看護における法律、施策	母性看護に関わる法律、施策を学ぶ	
7回	外国人母子の看護、災害母子の看護	外国人母子の看護、災害母子の看護について学ぶ	
8回	セクシャルリプロダクティブヘルス/ライツ(SRHR)	セクシャルリプロダクティブヘルスライツの基本要素について理解する。性差における女性の健康問題とその対策について考えることができる	
9回	リプロダクティブヘルスライツヘルスケア	DVや性暴力被害者への支援を学ぶ。	
10回	母性看護における生命倫理	母性看護における生命倫理について考えることができる (不妊治療、出生前診断、人工妊娠中絶など)	
受講上の注意 シラバスを参考に予習復習をして授業に臨んでください 新聞、インターネット上、「生」と「生殖」に関連していること話題になっていることや母性を取り巻く心理・社会的環境についての情報に関心をもち、様々な考えを学びながら自己の考えを述べるようにしよう			評価方法 筆記試験 70% レポート課題 30%
使用するeテキスト 母性看護学概論 参考となるeテキスト 母性看護学各論		使用するテキスト 教材用母子健康手帳 参考文献	

科目No. 91		配当時期 1 年次全期		担当者	
科目名 精神看護学 精神看護学概論		単位数 1 単位		石束 佳子 (1～10回)	
時間割表記名 精神看護学概論		時間数 30 時間 (15 回)		たなか まさこ 田中 雅子 (11～15回)	
科目のねらい 精神看護の対象者である人間の理解を深め、精神看護の目的・役割機能を考える 併せて自己を管理する能力を育成するとともに精神看護を行うものの資質の向上を目指す 授業目標 1. 精神看護学の主要概念を考え、精神看護が目指すものを理解する 2. こころの健康とは、こころの健康に影響する要因について理解を深める 3. こころの健康を守るためにわたしたちが持つメカニズムを理解する 4. 精神医療・精神看護の歴史、精神保健に関わる法律について理解する				DPとの関連	
				人間理解	○
				倫理・関係構築	
				看護実践	○
				協同・課題解決	○
				探究・成長	○
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
回数	学習内容	学習成果		備考	
1回 2回	科目ガイダンス 精神看護学における主要概念(映画) リカバリとレジリエンス・治療的人間関係技術	精神看護学概論で学ぶ事と評価を理解する 精神看護学における主要概念を考える 精神看護が目指すものを理解する		映画観賞 課題 講義	
3回	精神の健康とは WHOの定義、自分自身の心の健康、精神的健康のものさし	精神の健康について、理解を深める		講義 演習	
4回 5回	こころの構造 フロイトの力動論 防衛機制	こころの構造を理解する 防衛機制を理解する		講義 課題 演習	
6回	脳の構造とこころ・感情・身体との関連	脳と心・感情・身体との関連を理解する		講義 演習	
7回	こころの誕生 マラーの発達論	こころの発達の過程を理解する		講義 演習	
8回 9回	自己理解・自己管理 認知行動理論・ストレスモデル	自己理解を深め、自己管理の方法について知る		講義 演習 課題	
10回	リラクセーション	リラクセーションが活用できる		講義 演習・課題	
11回 12回	歴史から見る精神障害者の人権	精神医療。看護の歴史的な理解と精神障害者の人権について考えることができる		講義	
13回 14回	精神保健医療福祉に関する法制度	精神保健福祉法の目的・対象・入院形態・行動制限が理解できる 精神保健福祉に関連する法制度の目的・概要を理解できる		講義	
15回	ケアとセルフケア 精神科看護がめざすこと	精神の健康を維持・増進できるような看護について考え、課題を見出すことができる		講義	
受講上の注意 授業には課題等があります。ワークをするときに必要ですので、準備して臨んでください。 チームメイトやクラスメイトは、多様な意見を持っています。他者の意見を参考にしながら、自分の考えを拡げていきましょう。				評価方法 石束 65点 課題・筆記試験 田中 35点 筆記試験等	
使用するeテキスト 精神看護の基礎 参考となるeテキスト 精神看護の展開		使用するテキスト 参考文献 武井麻子著、精神看護学ノート、医学書院			